
JP1 Version 8

JP1/Automatic Job Management System 2 for 活文 PDFstaff Option

解説・手引・操作書

3020-3-K44

マニュアルの購入方法

このマニュアル，および関連するマニュアルをご購入の際は，
巻末の「ソフトウェアマニュアルのサービス ご案内」をご参
照ください。

HITACHI

対象製品

適用 OS のバージョン, JP1/Automatic Job Management System 2 for 活文 PDFstaff Option が前提とするサービスパックやパッチなどの詳細については, リリースノートで確認してください。

適用 OS : Windows 2000 , Windows XP Professional , Windows Server 2003

P-2412-3B84 JP1/Automatic Job Management System 2 for 活文 PDFstaff Option 08-10

輸出時の注意

本製品を輸出される場合には, 外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上, 必要な手続きをお取りください。

なお, ご不明な場合は, 弊社担当営業にお問い合わせください。

商標類

Active Directory は, 米国 Microsoft Corporation の, 米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Adobe, Adobe LiveCycle, および PostScript は, Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。

iGrafx は, カナダ Corel Corporation の登録商標です。

Microsoft は, 米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

Microsoft Excel は, 米国 Microsoft Corp. の商品名称です。

Microsoft Office は, 米国 Microsoft Corp. の商品名称です。

Microsoft Word は, 米国 Microsoft Corp. の商品名称です。

PowerPoint は, 米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

Visio は, 米国およびその他の国における米国 Microsoft Corporation の登録商標です。

Windows は, 米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

Windows Server は, 米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。

Windows Vista は, 米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。

一太郎は, (株) ジャストシステムの登録商標です。

活文, PDFstaff は, 日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社の登録商標です。

発行

2007年9月(第1版)3020-3-K44

著作権

Copyright (C) 2007, Hitachi, Ltd.

Copyright (C) 2007, Hitachi Software Engineering Co., Ltd.

はじめに

このマニュアルは、JP1/Automatic Job Management System 2 for 活文 PDFstaff Option（以降、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff と省略します）の機能、および操作方法について説明したものです。

対象読者

JP1/AJS2 で運用する業務（ジョブネット）に、文書を PDF ファイルに変換する処理を組み込みたいと考えている方を対象に説明しています。

なお、次の内容を理解されていることを前提とします。

- JP1/AJS2 の設計および運用をする上で必要な知識
- 活文 PDFstaff の構築および運用をする上で必要な知識
- 活文 PDFstaff を運用する上で必要な Adobe 関連製品の知識

マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す章から構成されています。

第 1 章 概要

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の特長、機能概要、および運用の流れについて説明しています。

第 2 章 設計

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff を導入する前に検討しておく内容について説明しています。

第 3 章 インストールとセットアップ

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のインストールおよびセットアップについて説明しています。

第 4 章 操作

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の操作について説明しています。

第 5 章 クラスタシステムの環境構築と運用

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff をクラスタシステムで運用する場合の環境構築、および運用時の留意点について説明しています。

第 6 章 メッセージ

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff が出力するメッセージについて説明しています。

第 7 章 トラブルシューティング

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の運用中にトラブルが発生した場合の対処方法について説明しています。

関連マニュアル

このマニュアルの関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

はじめに

JP1/AJS2 関連

- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 解説 (3020-3-K21)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド (3020-3-K22)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 セットアップガイド(3020-3-K23)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 操作ガイド (3020-3-K24)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 コマンドリファレンス (3020-3-K25)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 連携ガイド (3020-3-K27)
- JP1 Version 8 JP1/Automatic Job Management System 2 メッセージ (3020-3-K28)

JP1 関連

- JP1 Version 8 JP1/Base 運用ガイド (3020-3-K06)
- JP1 Version 8 JP1/Base メッセージ (3020-3-K07)
- JP1 Version 8 JP1/NETM/DM 運用ガイド 1(Windows(R) 用) (3020-3-L38)

読書手順

このマニュアルは、利用目的に合わせて章を選択して読むことができます。利用目的別にお読みいただくことをお勧めします。

マニュアルを読む目的	記述箇所
JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff を導入するメリット, JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の機能, およびおおまかな運用手順が知りたい。	1 章
JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の前提となる製品, および JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff を導入するシステムの構成が知りたい。	2 章
JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff を利用した業務計画の立案時に留意する点が知りたい。	2 章
JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff をインストールおよびセットアップする方法が知りたい。	3 章
JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の操作方法が知りたい。	4 章
JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff をクラスタシステムで運用する場合の環境構築, および運用時の留意点が知りたい。	5 章
JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の運用中に出力されたメッセージの意味と対処方法が知りたい。	6 章
JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の運用中に発生したトラブルの対処方法が知りたい。	7 章
JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のファイルおよびフォルダ一覧, 日付変数・ページ変数一覧, 運用例, 用語解説について知りたい。	付録

このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、日立製品およびそのほかの製品の名称を省略して表記しています。正式名称と、このマニュアルでの表記を次の表に示します。

正式名称	このマニュアルでの表記	
JP1/Automatic Job Management System 2 - Manager	JP1/AJS2 - Manager	JP1/AJS2
JP1/Automatic Job Management System 2 - Agent	JP1/AJS2 - Agent	
JP1/Automatic Job Management System 2 - Light Edition	JP1/AJS2 - Light Edition	
JP1/Automatic Job Management System 2 - View	JP1/AJS2 - View	
JP1/Automatic Job Management System 2 for 活文 PDFstaff Option	JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff	
Adobe(R) LiveCycle(R) Assembler 7.2	Adobe LiveCycle Assembler	Adobe サーバ
Adobe(R) LiveCycle(R) PDF Generator PostScript Edition 7.2	Adobe LiveCycle PDF Generator	
Microsoft(R) Excel 2000	Excel 2000	Excel
Microsoft(R) Excel 2003	Excel 2003	
Microsoft(R) Excel XP	Excel XP	
Microsoft(R) Office 2000	Office 2000	Office
Microsoft(R) Office 2003	Office 2003	
Microsoft(R) Office XP	Office XP	
Microsoft(R) PowerPoint(R) 2000	PowerPoint 2000	PowerPoint
Microsoft(R) PowerPoint(R) 2003	PowerPoint 2003	
Microsoft(R) PowerPoint(R) XP	PowerPoint XP	
Microsoft(R) Visio 2003	Visio 2003	Visio
Microsoft(R) Windows(R) 2000 Advanced Server Operating System	Windows 2000 Server	Windows 2000
Microsoft(R) Windows(R) 2000 Professional Operating System	Windows 2000 Professional	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition	Windows Server 2003	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition		
Microsoft(R) Windows Vista(R) Business	Windows Vista	
Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise		
Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate		
Microsoft(R) Windows(R) XP Professional Operating System	Windows XP Professional	
Microsoft(R) Word 2000	Word 2000	Word
Microsoft(R) Word 2003	Word 2003	
Microsoft(R) Word XP	Word XP	

正式名称	このマニュアルでの表記
活文 PDFstaff Server	活文 PDFstaff

注

Windows 2000 , Windows Server 2003 , Windows Vista , および Windows XP Professional を総称して Windows と表記することがあります。

このマニュアルで使用する英略語

このマニュアルで使用する英略語を次に示します。

英略語	正式名称
DLL	<u>D</u> ynamic <u>L</u> ink <u>L</u> ibrary
DPI	<u>D</u> ot <u>P</u> er <u>I</u> nch
PC	<u>P</u> ersonal <u>C</u> omputer
PDF	<u>P</u> ortable <u>D</u> ocument <u>F</u> ormat
UNC	<u>U</u> niversal <u>N</u> aming <u>C</u> onvention
URL	<u>U</u> niform <u>R</u> esource <u>L</u> ocator

このマニュアルで使用する記号

このマニュアルで使用する記号を次の表に示します。

記号	意味と例
[]	メニュー項目、ウィンドウ、ダイアログボックス、ダイアログボックスのボタンなどを示します。 (例) [ファイル] - [新規作成] を選択する。 この例では、メニューバーの [ファイル] を選んで、プルダウンメニューの [新規作成] を選択することを示します。

図中で使用する記号

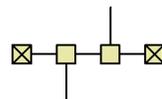
このマニュアルの図中で使用する記号を次の図に示します。

●コンピュータ
(端末)●コンピュータ
(ホスト)

●ファイル



●ネットワーク



●プログラム



●画面



●ジョブネット



●ジョブ



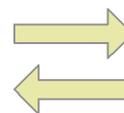
●判定ジョブ



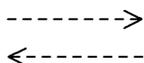
●イベントジョブ

●PDF変換する
カスタムジョブ
(PDF変換ジョブ)

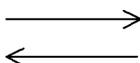
●データの流れ



●制御の流れ



●ジョブ実行の流れ

●工程、作業項目の
流れ

●ジョブの実行結果



デフォルトのインストール先フォルダ

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のデフォルトのインストール先フォルダは、次のとおりです。
システムドライブ ¥Program Files¥Hitachi¥JP1/AJS2/FORPDFS

このマニュアルで使用する「Administrators 権限」について

このマニュアルで表記している「Administrators 権限」とは、ローカル PC に対して Administrators 権限を持つユーザーを指します。ローカル PC に対して Administrators 権限を持つユーザーであれば、ローカルユーザー、ドメインユーザー、および ActiveDirectory 環境で動作に違いはありません。

常用漢字以外の漢字の使用について

このマニュアルでは、常用漢字を使用することを基本としていますが、次の用語については、常用漢字以外の漢字を使用しています。

揃え（そろえ） 同梱（どうこん） 必須（ひつす）

KB (キロバイト) などの単位表記について

1KB (キロバイト), 1MB (メガバイト), 1GB (ギガバイト), 1TB (テラバイト) はそれぞれ $1,024$ バイト, $1,024^2$ バイト, $1,024^3$ バイト, $1,024^4$ バイトです。

目次

1	概要	1
1.1	JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の特長	2
1.2	JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の機能	3
1.2.1	PDF 変換	4
1.2.2	PDF ファイルへのセキュリティ設定	4
1.2.3	適用範囲	5
1.3	運用までの流れ	6
2	設計	7
2.1	JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff 導入前の検討項目一覧	8
2.2	システム構成の検討	9
2.2.1	システム構成	9
2.2.2	メモリー所要量およびディスク占有量	12
2.3	変換した PDF ファイルに設定する内容の検討	13
2.4	ジョブネット構成の検討	15
2.4.1	PDF 変換エラーの対処に備えたジョブネットの定義方法	15
2.4.2	PDF 変換ジョブを同時に複数実行する場合の注意事項	17
2.5	システム一時フォルダへの権限の確認	21
3	インストールとセットアップ	23
3.1	インストールとセットアップの流れ	24
3.2	インストール	25
3.2.1	インストール時の注意事項	25
3.2.2	新規インストール	25
3.2.3	上書きインストール	26
3.2.4	JP1/NETM/DM を使ったりモートインストール (ソフトウェアの配布)	26
3.3	環境設定	27
3.3.1	環境設定ファイルの定義方法	27
3.3.2	環境設定ファイルに定義できる項目	27
3.3.3	環境設定ファイルの内容	29
3.4	障害が発生したときに必要な資料を採取するための設定	30
3.5	カスタムジョブの登録	31

3.5.1	カスタムジョブを登録する手順	31
3.5.2	カスタムジョブ登録で指定する内容	32
3.6	アンインストール	33
3.6.1	アンインストール時の注意事項	33
3.6.2	アンインストール	33
4	操作	35
4.1	対象フォルダの作成と PDF 変換するファイルの格納	36
4.2	PDF 変換ジョブの定義	37
4.2.1	PDF 変換ジョブの定義方法	37
4.2.2	PDF ファイルに設定するパスワードを定義する (任意)	43
4.2.3	PDF ファイルに設定するセキュリティを定義する (任意)	44
4.2.4	PDF ファイルに設定するヘッダおよびフッタを定義する (任意)	47
4.2.5	PDF ファイルに設定する透かし文字を定義する (任意)	49
4.2.6	ジョブ実行ホストと活文 PDFstaff サーバとの通信時間を短縮する (任意)	50
4.3	PDF 変換ジョブの実行	52
4.3.1	PDF 変換ジョブを実行する前の確認	52
4.3.2	ジョブネットの実行登録	52
4.4	PDF 変換ジョブの実行結果の確認	53
4.4.1	PDF 変換ジョブの実行状況を確認する	53
4.4.2	JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の終了コード	53
4.5	PDF 変換ジョブ実行時の注意事項	55
4.5.1	PDF 変換ジョブ実行中の注意事項	55
4.5.2	実行結果が異常または警告だった場合の対処	55
4.5.3	ログファイルの参照に関する注意事項	55
5	クラスタシステムの環境構築と運用	57
5.1	クラスタシステムの環境構築	58
5.2	系切り替え時の動作と回復手順	59
6	メッセージ	61
6.1	メッセージの分類	62
6.2	メッセージの出力形式	63
6.3	メッセージの記載形式	64

6.4	メッセージの出力先	65
6.5	メッセージ一覧	66

7

	トラブルシューティング	77
7.1	対処の手順	78
7.2	ログの種類	79
7.3	トラブルが解決しない場合に採取する資料	80
	7.3.1 JP1/AJS2 の障害情報	80
	7.3.2 JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の障害情報	80
7.4	トラブル別の対処方法	83
	7.4.1 PDF 変換ができない場合の対処	83
	7.4.2 PDF 変換ジョブが終了しない場合の対処	83

付録

		85
付録 A	ファイルおよびフォルダ一覧	86
付録 B	日付変数とページ変数一覧	87
付録 C	運用例	88
付録 D	用語解説	89

索引

	93
--	----

1

概要

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff は、活文 PDFstaff が提供する PDF 変換処理を JP1/AJS2 の一つのジョブとして実行できるようにします。

この章では、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の特長および機能について説明します。

1.1 JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の特長

1.2 JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の機能

1.3 運用までの流れ

1.1 JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の特長

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff は、JP1/AJS2 で自動化される一連の業務の中に、文書を PDF ファイルに変換する業務を組み込むための製品です。

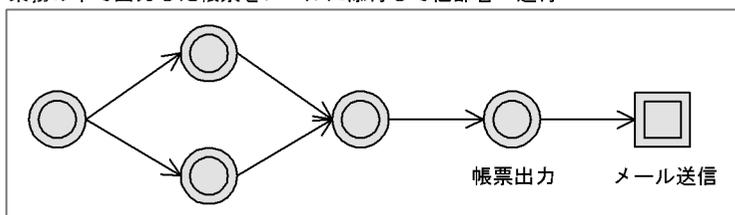
JP1/AJS2 では、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff が提供するカスタムジョブ（以降、「PDF 変換ジョブ」と表記します）を定義するだけで、活文 PDFstaff が提供する PDF 変換処理を業務に組み込みます。

また、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff では、作成する PDF ファイルにパスワードなどのセキュリティも設定できるため、次に示す効果も期待できます。

図 1-1 JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff 導入事例

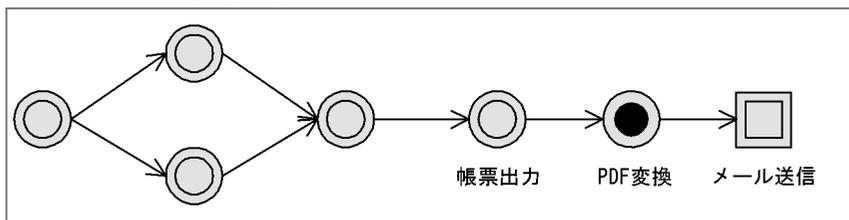
●JP1/AJS2 for 活文PDFstaff導入前

業務の中で出力した帳票をメールに添付して他部署へ送付



●JP1/AJS2 for 活文PDFstaff導入後

業務の中で出力した帳票をパスワード付きのPDFファイルに変換し、PDFファイルをメールに添付して他部署に送付



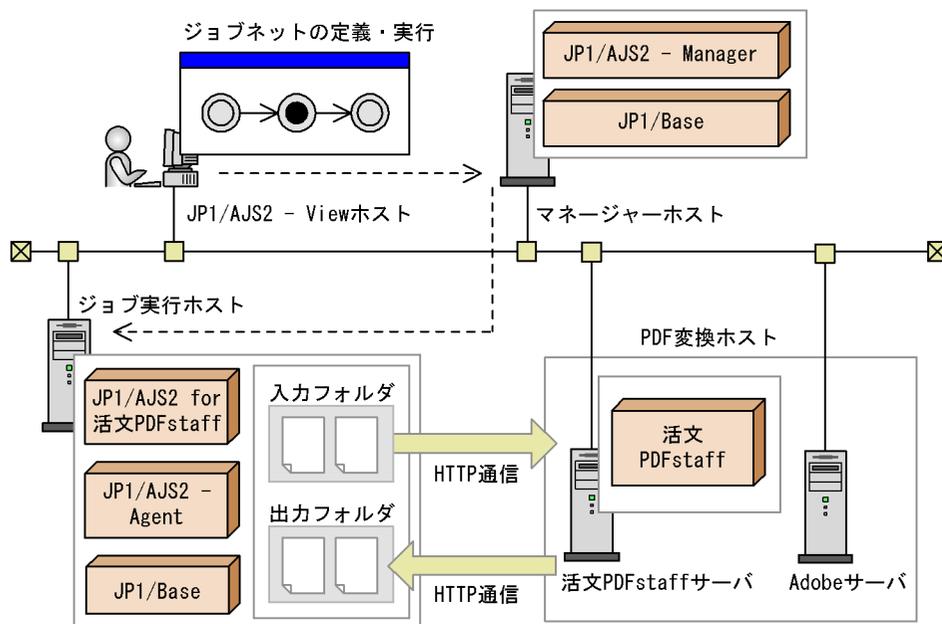
図の例では、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の導入後は、メールを誤ったあて先に送付しても添付したファイルにパスワードを設定しているため、第三者が添付ファイルを開けません。このように、セキュリティを意識した業務を構築できるようになります。

1.2 JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の機能

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff は、指定したフォルダにあるファイルを PDF ファイルに変換したり、変換した PDF ファイルに透かし文字などのセキュリティを設定したりできます。

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff での PDF ファイルへの変換処理の流れを次の図に示します。

図 1-2 JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff での PDF ファイルへの変換処理の流れ



JP1/AJS2 - View ホストで PDF 変換ジョブを配置したジョブネットを定義します。

ジョブ実行ホストに、PDF 変換するファイルを配置するフォルダ（入力フォルダ）と、PDF 変換されたファイルを出力するフォルダ（出力フォルダ）を用意します。

PDF 変換ジョブが実行されると、入力フォルダに配置されているファイルを PDF 変換ホストに送信します。そして、活文 PDFstaff によって変換された PDF ファイルを受信して、出力フォルダに格納します。なお、ジョブ実行ホストと PDF 変換ホスト間は、HTTP 通信で送受信されます。

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の機能について説明します。

1. 概要

1.2.1 PDF 変換

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff では、活文 PDFstaff と連携して特定の拡張子を持つファイルを PDF ファイルに変換できます。

PDF 変換できるファイルの種類と拡張子を次の表に示します。

表 1-1 PDF 変換できるファイルの種類と拡張子

ファイルの種類		拡張子
iGrafx		.igx , .flo , .abc , .af3 , .af2 , .pfd
Office 文書	Word (2000/XP/2003)	.doc
	Excel (2000/XP/2003)	.xls
	PowerPoint (2000/XP/2003)	.ppt
	Visio (2003)	.vsd , .vdx
PDF		.pdf
PostScript		.ps , .eps
Web アーカイブ		.mht , .mhtml
一太郎文書 (2004/2005/2006)		.jtd , .jtde , .jtsd
画像		.gif , .jpg , .jpeg , .jpe , .jif , .png , .tif , .tiff , .bmp
テキスト		.txt

注

変換対象として PDF ファイルを指定した場合は、PDF ファイルにセキュリティを設定できます。セキュリティ設定の詳細は、「1.2.2 PDF ファイルへのセキュリティ設定」を参照してください。

注意事項

活文 PDFstaff は、表 1-1 に示す拡張子のファイルを PDF 変換できます。ただし、PDF 変換するためには、PDF 変換する文書の種類と拡張子に対応したアプリケーションを PDF 変換ホストにインストールしておく必要があります。例えば、Word ファイルを PDF 変換する場合は、あらかじめ PDF 変換ホストに Word をインストールしておく必要があります。使用する PDF 変換ホストで PDF 変換できるファイルの種類について、事前に活文 PDFstaff 側の管理者に確認しておいてください。

1.2.2 PDF ファイルへのセキュリティ設定

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff では、PDF ファイルに設定するセキュリティをジョブの定義時に指定できます。このため、PDF 変換後に改めてセキュリティを設定する必要はありません。

また、PDF ファイルに対しても、セキュリティを設定できます。この場合は、変換するファイルに PDF ファイルを指定してください。

設定できるセキュリティの種類を次の表に示します。

表 1-2 設定できるセキュリティの種類

種類	設定内容
開く	ファイルを開くときのパスワードを設定する
操作制限	操作制限する場合のセキュリティパスワードを設定する
	印刷を制限する（印刷禁止や印刷時の解像度を指定できる）
	変更を制限する（編集禁止や編集できる場所を指定できる）
	テキスト、画像、およびそのほかの内容のコピーを有効にする
	スクリーンリーダーデバイスのテキストアクセスを有効にする
ヘッダ設定	ヘッダを設定する（表示文字列、フォントサイズ、表示位置を指定できる）
フッタ設定	フッタを設定する（表示文字列、フォントサイズ、表示位置を指定できる）
透かし文字の設定	透かし文字を設定する（表示文字列、フォントサイズ、表示タイプ、表示と印刷を指定できる）

注意事項

PDF 変換ホストの環境によって、設定できるセキュリティの内容が異なります。詳細は、「2.3(1) 使用する Adobe サーバの種類」を参照してください。

1.2.3 適用範囲

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff では、活文 PDFstaff が提供する機能のうち、次の機能を使用できます。

- PDF 変換
- PDF ファイルへのセキュリティ設定

1.3 運用までの流れ

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の導入から、文書を PDF に変換する業務を自動化するまでの流れを次に示します。

表 1-3 運用までの流れ

手順		必要な操作	参照箇所
導入	1	システム構成を検討する。	2.2
	2	ジョブ実行ホストに JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff をインストールする。	3.2
	3	JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の動作環境を設定する。	3.3 , 3.4
	4	PDF 変換ジョブを実行するユーザーに必要な権限を確認する。	2.5
	5	JP1/AJS2・View ホストに PDF 変換ジョブを登録する。	3.5
業務の定義	1	業務の設計で、次の内容を検討する。 <ul style="list-style-type: none"> PDF ファイルに設定するセキュリティを検討する。 ジョブネット構成を検討する。 	2.3 , 2.4
	2	ジョブ実行ホストに PDF 変換用の入力フォルダおよび出力フォルダを作成する。	4.1
	3	JP1/AJS2・View で、PDF 変換ジョブを定義したジョブネットを作成する。	4.2
業務の実行		JP1/AJS2・View から、PDF 変換ジョブを定義したジョブネットを JP1/AJS2・Manager に実行登録する。	4.3
実行結果の確認		JP1/AJS2・View で実行結果を確認する。	4.4

2

設計

この章では、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff を導入する前に検討しておく内容について説明します。

2.1 JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff 導入前の検討項目一覧

2.2 システム構成の検討

2.3 変換した PDF ファイルに設定する内容の検討

2.4 ジョブネット構成の検討

2.5 システム一時フォルダへの権限の確認

2.1 JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff 導入前の検討項目一覧

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff を導入する前に検討する必要がある項目を次に示します。

表 2-1 JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff を導入する前の検討項目

検討項目	内容	参照先
システム構成	JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff を導入する目的に合わせてシステム構成を検討します。	2.2.1
	JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のメモリー所要量とディスク占有量を見積もります。	2.2.2
変換した PDF ファイルに設定する内容	PDF ファイルにセキュリティや透かし文字などを設定する場合、Adobe サーバのサポート範囲を考慮します。	2.3(1)
	活文 PDFstaff 側でセキュリティや透かし文字などを設定していると、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff での設定が無効になる場合があるため、活文 PDFstaff 側の設定を確認します。	2.3(2)
ジョブネット構成	PDF 変換エラーの対処に備えて、PDF 変換するファイルが自動的に削除されないように後続ジョブを定義します。	2.4.1
	PDF 変換ジョブを同時に複数実行する場合、ジョブ実行多重度を見積もります。	2.4.2(1)
	PDF 変換ジョブを同時に複数実行する場合、同じファイルが同時に PDF 変換されないようにジョブネットを定義します。	2.4.2(2)
システム一時フォルダへの権限	PDF 変換ジョブを実行するユーザーに、システムの一時フォルダへの書き込み権限があるかどうかを確認します。	2.5

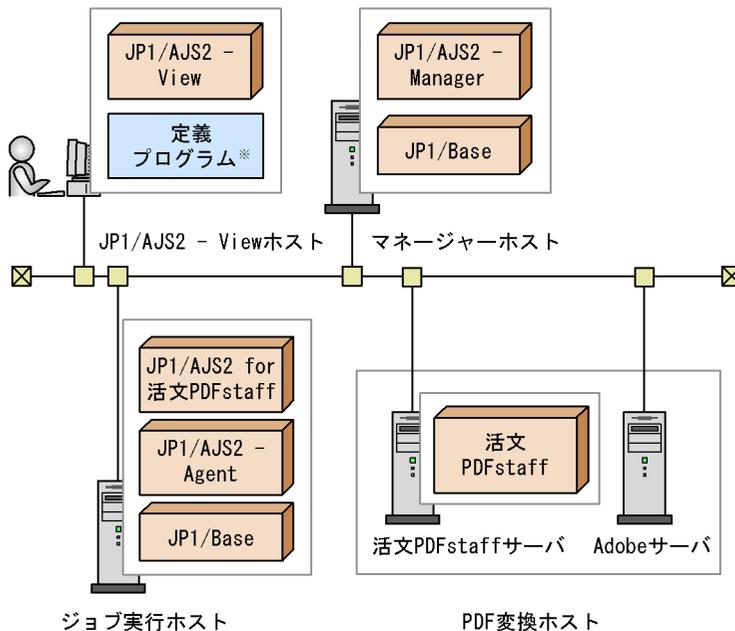
2.2 システム構成の検討

この節では、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のシステム構成の検討項目、および JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のディスク占有量とメモリー所要量の見積もりについて説明します。

2.2.1 システム構成

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff システムの基本的なシステム構成例を次の図に示します。

図 2-1 JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff システムの基本的なシステム構成例



注※ 定義プログラムは、PDF変換ジョブを定義するための、JP1/AJS2 for 活文PDFstaffのプログラムです。JP1/AJS2 - Viewでセットアップが必要です。

ここでは、各ホストの役割と前提プログラム、および各ホストの台数などの制限事項について説明します。

(1) 各ホストの役割と前提プログラム

各ホストの役割、および JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff を運用するために必要な OS とプログラムについて説明します。

JP1/AJS2 - View ホスト

PDF 変換ジョブを定義したり、PDF 変換ジョブの実行状況を確認したりします。
JP1/AJS2 - View ホストに必要な OS とプログラムを次の表に示します。

2. 設計

表 2-2 JP1/AJS2 - View ホストに必要な OS とプログラム

項目	ソフトウェア
OS	Windows Vista ¹ , Windows Server 2003 Standard Edition , Windows Server 2003 Enterprise Edition , Windows XP Professional , Windows 2000 Server ² , または Windows 2000 Professional ²
プログラム	JP1/AJS2 - View 07-50 以降

注 1

Windows Vista 版の JP1/AJS2 - View 08-10 以降だけ対応します。

注 2

JP1/AJS2 - View 08-00 以降は対応していません。

マネージャーホスト

JP1/AJS2 - View で定義した PDF 変換ジョブの定義情報を管理したり, PDF 変換ジョブの実行要求をジョブ実行ホストに送信したりします。マネージャーホストに必要な OS とプログラムを次の表に示します。

表 2-3 マネージャーホストに必要な OS とプログラム

項目	ソフトウェア
OS	Windows Server 2003 Standard Edition または Windows Server 2003 Enterprise Edition
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> • JP1/AJS2 - Manager 07-50 以降 • JP1/Base 07-50 以降

ジョブ実行ホスト

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff は, JP1/AJS2 - Manager からの PDF 変換ジョブの実行要求を受けて活文 PDFstaff に PDF 変換の要求を送信します。JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff はジョブ実行ホストにインストールします。ジョブ実行ホストに必要な OS とプログラムを次の表に示します。

表 2-4 ジョブ実行ホストに必要な OS とプログラム

項目	ソフトウェア
OS	Windows Server 2003 Standard Edition , Windows Server 2003 Enterprise Edition , Windows XP Professional ¹ , Windows 2000 Server , または Windows 2000 Professional

項目	ソフトウェア
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff JP1/AJS2 - Agent 07-50 以降 ,JP1/AJS2 - Manager 07-50 以降 ²または JP1/AJS2 - Light Edition 07-50 以降 JP1/Base 07-50 以降

注 1

JP1/AJS2 - Agent 08-00 以降および JP1/AJS2 - Manager 08-00 以降は対応していません。

注 2

ジョブ実行ホストに JP1/AJS2 - Agent をインストールしないで JP1/AJS2 - Manager をインストールし、PDF 変換ジョブの管理から PDF 変換ジョブの実行までを一括して実施することもできます。

なお、OS のバージョン、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff が前提とするサービスパックやパッチなどの詳細については、リリースノートで確認してください。

PDF 変換ホスト

ジョブ実行ホストから送信された要求に基づいて PDF 変換を実行し、処理結果をジョブ実行ホストに返信します。活文 PDFstaff サーバおよび Adobe サーバで構成されます。

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff が接続できる活文 PDFstaff のバージョンは、活文 PDFstaff Server 01-02-/A 以降です。活文 PDFstaff に必要な OS およびプログラムについては、活文 PDFstaff のマニュアルを参照してください。また、PDF 変換ホストには、PDF 変換するファイルのプログラム（例えば、Word XP のファイルを変換する場合は、Word XP）が必要です。

(2) JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のシステム構成の制限事項

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のシステム構成の制限事項を次の表に示します。

表 2-5 JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のシステム構成の制限事項

項目	制限事項
JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のシステムに導入できるジョブ実行ホストの数	JP1/AJS2 - Manager に接続できる JP1/AJS2 - Agent の数と同様です。JP1/AJS2 - Manager に接続できる JP1/AJS2 - Agent の数については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド」を参照してください。
JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のシステムに導入できる JP1/AJS2 - View の数	JP1/AJS2 - Manager に接続できる JP1/AJS2 - View の数と同様です。JP1/AJS2 - Manager に接続できる JP1/AJS2 - View の数については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド」を参照してください。

2. 設計

項目	制限事項
1 台のジョブ実行ホストが接続できる PDF 変換ホストの数	ジョブ実行ホストと PDF 変換ホストとの対応は、多対多の関係を取ることができます。ただし、PDF 変換ジョブを同時に複数実行する場合、活文 PDFstaff に送信できる PDF 変換ファイル数とジョブ実行ホストの台数のバランスを考慮する必要があります。詳細は、「2.4.2 PDF 変換ジョブを同時に複数実行する場合の注意事項」を参照してください。

2.2.2 メモリー所要量およびディスク占有量

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のメモリー所要量、ディスク占有量の見積もりについては、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のリリースノートを参照してください。

2.3 変換した PDF ファイルに設定する内容の検討

この節では、変換した PDF ファイルにパスワードなどのセキュリティを設定する場合の注意事項について説明します。

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff では、PDF 変換ジョブの定義の段階で、変換後の PDF ファイルに設定するパスワード、ヘッダとフッタ、透かし文字などを定義できます。

ただし、変換後の PDF ファイルに設定する内容を検討する際、次の点を考慮しておく必要があります。

- 使用する Adobe サーバの種類によって、PDF ファイルに設定できる内容が異なる
- 活文 PDFstaff 側で、PDF ファイルに設定できる内容がすでに設定されている場合がある

それぞれについて説明します。

(1) 使用する Adobe サーバの種類

使用する Adobe サーバの種類によっては、PDF 変換ジョブに定義した設定が、変換された PDF ファイルに反映されない場合があります。例えば、ヘッダ・フッタの設定は、使用する Adobe サーバが Adobe LiveCycle Assembler の場合は反映されますが、Adobe LiveCycle PDF Generator の場合は反映されません。これは、Adobe LiveCycle PDF Generator がヘッダ・フッタの設定をサポートしていないためです。

使用する Adobe サーバがサポートする PDF ファイルの設定内容を確認した上で、変換後の PDF ファイルに設定する内容を検討してください。各種 Adobe サーバがサポートする PDF ファイルの設定内容については、リリースノートを参照してください。

なお、Adobe サーバがサポートしない PDF ファイルの設定が PDF 変換ジョブに定義された場合、PDF 変換ジョブの実行結果は、デフォルトでは正常終了となります。実行結果を警告終了にしたい場合は、活文 PDFstaff の設定を変更してください。活文 PDFstaff の設定を次の表に示します。

表 2-6 PDF 変換ジョブの実行結果を変更する設定

活文 PDFstaff の設定	活文 PDFstaff の動作	PDF 変換ジョブの実行結果
Adobe サーバがサポートしない機能を無効にする	Adobe サーバがサポートしない PDF ファイルの設定内容が PDF 変換ジョブに定義された場合、サポートしない設定は省略されて PDF 変換される	終了コード 0 (正常終了)

2. 設計

活文 PDFstaff の設定	活文 PDFstaff の動作	PDF 変換ジョブの実行結果
Adobe サーバがサポートしない機能を無効にしない	Adobe サーバがサポートしない PDF ファイルの設定内容が PDF 変換ジョブに定義された場合、Adobe サーバで PDF 変換処理がエラーとなり、活文 PDFstaff でもエラーとなる	終了コード 2 (警告)

活文 PDFstaff の設定については、活文 PDFstaff のマニュアルを参照してください。

(2) 活文 PDFstaff の強制設定

活文 PDFstaff 側でセキュリティや透かし文字などを設定していると、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff での設定が無効になる場合があります。事前に、活文 PDFstaff 側の設定を確認しておいてください。

2.4 ジョブネット構成の検討

この節では、ジョブネットに PDF 変換ジョブを定義する際に考慮する点について説明します。

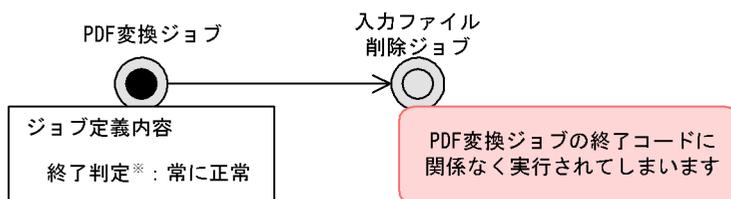
2.4.1 PDF 変換エラーの対処に備えたジョブネットの定義方法

PDF 変換でエラーが発生した場合、PDF 変換する前のファイルの内容を確認して対処することがあるため、PDF 変換する前のファイルを削除しないで残しておく配慮が必要です。

PDF 変換する前のファイルは、ジョブ実行ホストに「入力フォルダ」というフォルダを作成して格納します。入力フォルダに格納しているファイルを自動的に削除しないようにジョブネットを定義してください。

推奨しない定義例を次に示します。

図 2-2 推奨しない定義例



(凡例)

入力ファイル削除ジョブ：PDF変換する前のファイルを削除するPGジョブを指します。

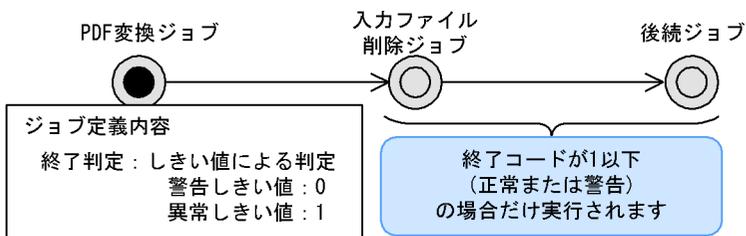
注※

ジョブが終了した状態を正常、警告、または異常と判定させる定義のことです。ジョブの実行結果コード（終了コード）に対してしきい値を設定します。例えば、しきい値1を超えると異常と判定されるように設定できます。この例の場合、どの終了コードが出力されても正常とみなされます。PDF変換ジョブ定義の詳細は、「4.2 PDF変換ジョブの定義」を参照してください。

この定義では、PDF 変換ジョブの終了判定を「常に正常」としているため、PDF 変換ジョブの実行結果が正常でも異常でも、入力ファイル削除ジョブが実行されます。したがって、PDF 変換する前のファイルが自動的に削除されてしまいます。このような定義は避けてください。

推奨する定義例を次の図に示します。

図 2-3 推奨する定義例 -1 ジョブネットを中断させる定義



(凡例)

後続ジョブ: 入力ファイル削除ジョブに続いて実行されるジョブを指します。

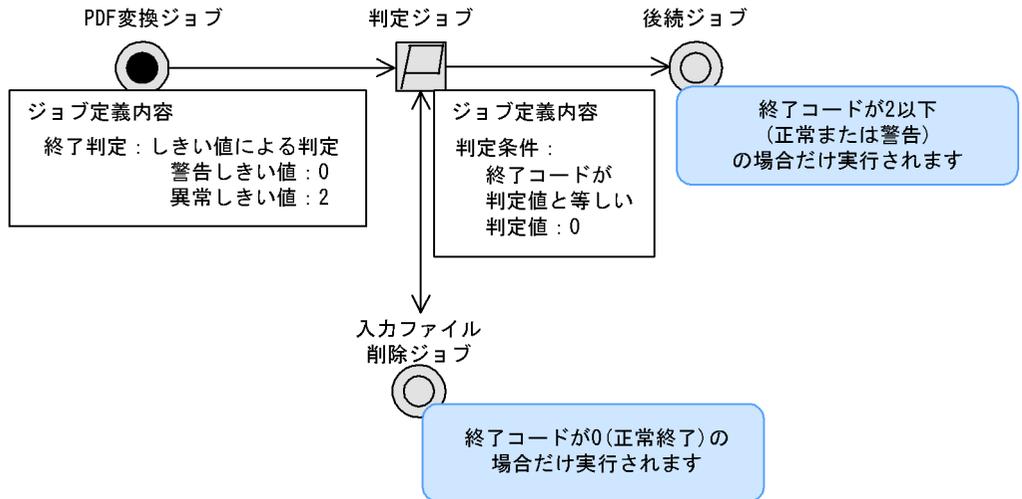
この定義では、PDF変換ジョブの定義で、終了判定に「しきい値による判定」を指定し、PDF変換ジョブの終了コード0で正常、終了コード1で警告、終了コード2以上で異常と判定されるよう設定しています。

これによって、PDF変換ジョブの実行結果が異常の場合、入力ファイル削除ジョブ以降のジョブが実行されないため、PDF変換前のファイルを残せます。

終了コードの詳細は、「4.4.2 JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の終了コード」を参照してください。

また、PDF変換に失敗しても後続ジョブを実行したい場合、次の定義例を推奨します。

図 2-4 推奨する定義例 -2 PDF 変換に失敗したら入力ファイルの削除処理だけをスキップする定義



(凡例)

判定ジョブ: PDF変換ジョブの終了コードに応じて、後続ジョブを実行するか入力ファイル削除ジョブを実行するかを判定するジョブを指します。

この定義では、終了コード2の場合は警告となり、入力ファイル削除ジョブがスキップされ、後続ジョブだけが実行されます。

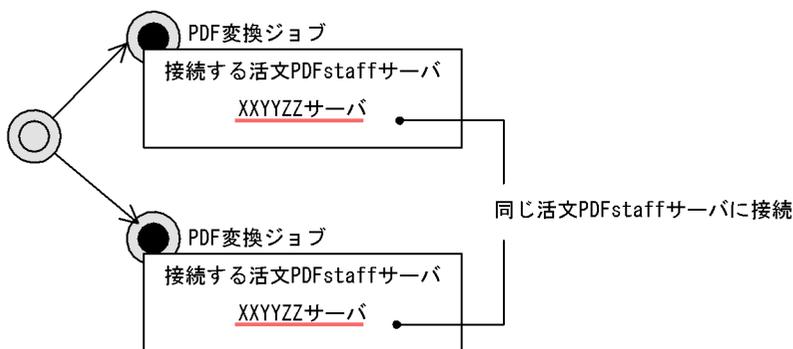
終了コード0の場合は正常となり、正常の場合だけ入力ファイル削除ジョブが実行されます。また、後続ジョブも実行されます。

なお、終了コードが2を超えた場合は異常となり、判定ジョブ以降のジョブは実行されません。

2.4.2 PDF 変換ジョブを同時に複数実行する場合の注意事項

JP1/AJS2 は、同時に実行するジョブの数の最大値「ジョブ実行多重度」を定義することで、複数のジョブを同時に実行できます。PDF 変換ジョブも、JP1/AJS2 でジョブ実行多重度を設定しておけば、次の図のように同時に複数の PDF 変換ジョブを実行できます。

図 2-5 PDF 変換ジョブの同時実行



ただし、ジョブ実行多重度を設定する場合は、次の事項に従ってください。

- 1 台のジョブ実行ホストに設定できるジョブ実行多重度を見積もる
- 同じファイルが同時に変換されないようにする

それぞれについて説明します。

(1) ジョブ実行多重度を見積もる

PDF 変換ジョブのジョブ実行多重度は、次の見積もり式で算出してください。

$$\begin{aligned} \text{ジョブ実行多重度 (単位: 整数)} = & \\ & (\text{活文PDFstaffが受け付けられるPDF変換ファイル数}^1 \\ & \div \text{活文PDFstaffに同時に接続するジョブ実行ホスト数}) \\ & \div 4^2 \end{aligned}$$

注 1

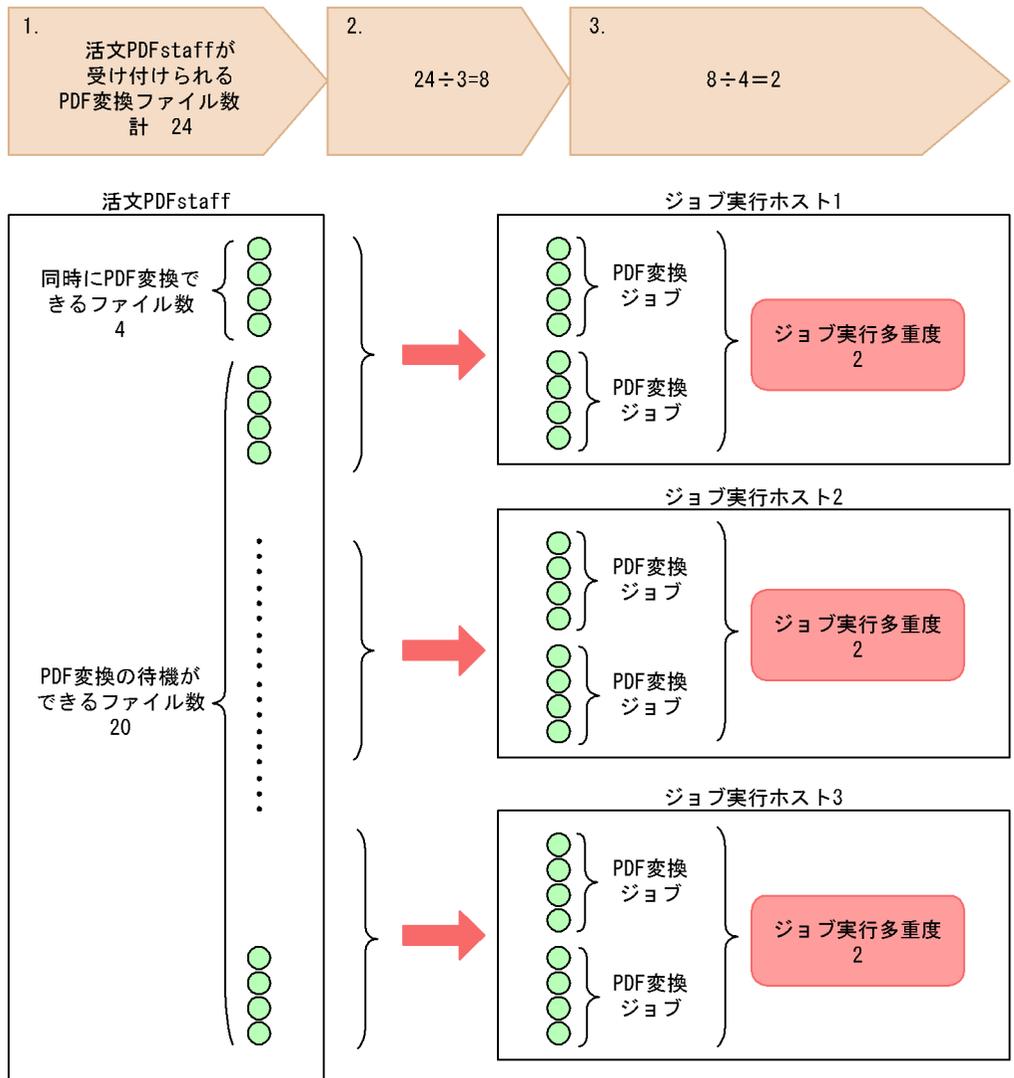
(活文 PDFstaff が同時に PDF 変換できるファイル数 + PDF 変換を待機できるファイル数) を指します。デフォルト値は 24 です。ただし、活文 PDFstaff の設定によって異なります。詳細は、活文 PDFstaff のマニュアルを参照してください。

注 2

一つのジョブの実行で、活文 PDFstaff に一度に依頼できる変換ファイル数が、4 ファイルであることを示します。

PDF 変換ジョブのジョブ実行多重度の考え方を、1 台の活文 PDFstaff に 3 台のジョブ実行ホストが接続する例で説明します。

図 2-6 PDF 変換ジョブのジョブ実行多重度の考え方



(凡例) ● : PDF変換するファイルを指します。

図中のフローの順番に沿って説明します。

1. 活文 PDFstaff が受け付けられる PDF 変換ファイル数

まず、活文 PDFstaff が一度に受け付けられる PDF 変換ファイル数を調査してください。

活文 PDFstaff が受け付けられる PDF 変換ファイル数は、同時に PDF 変換できるファイル数（デフォルト：4）と PDF 変換を待機できるファイル数（デフォルト：20）の合計で、デフォルトは 24 です。

2. 設計

2. $24 \div 3$ (活文 PDFstaff に同時に接続するジョブ実行ホスト数) = 8

次に、ジョブ実行ホストが、活文 PDFstaff に同時に PDF 変換依頼できるファイル数を考えます。

ジョブ実行ホスト数が 3 台だとすると、1 台のジョブ実行ホストが同時に活文 PDFstaff に依頼できる PDF 変換ファイルの数は、 24 (ファイル) \div 3 (台) = 8 (ファイル) となります。

3. $8 \div 4$ (一つのジョブの実行で、一度に活文 PDFstaff に依頼できる変換ファイル数) = 2

最後に、1 台のジョブ実行ホストに設定できるジョブ実行多重度を考えます。

一つの PDF 変換ジョブの実行で、同時に活文 PDFstaff に依頼できる変換ファイル数は、4 ファイルと決まっています。

1 台のジョブ実行ホストが活文 PDFstaff に同時に依頼できるファイル数は 8 ファイルなので、 8 (ファイル) \div 4 (ファイル) = 2 (ジョブ) となります。したがって、1 台のジョブ実行ホストに設定できるジョブ実行多重度は 2 となります。

なお、この例では、ジョブ実行ホスト 3 台ともジョブ実行多重度を 2 としましたが、すべて同じである必要はありません。例えば、1 台目のジョブ実行多重度を 1 (4 ファイル)、2 台目のジョブ実行多重度を 3 (12 ファイル)、3 台目のジョブ実行多重度を 2 (8 ファイル) と設定しても、活文 PDFstaff に依頼するファイル数は、計 24 ファイルです。最終的に、活文 PDFstaff が受け付けられるファイル数と、ジョブ実行ホストから依頼するファイル数が一致していれば問題ありません。

(2) 同じファイルが同時に変換されないようにする

PDF 変換ジョブに定義する、PDF 変換対象ファイルおよびフォルダは、排他制御されません。同じ PDF 変換対象ファイルおよびフォルダが指定された PDF 変換ジョブが同時に実行されないように、ジョブネットを定義してください。

2.5 システム一時フォルダへの権限の確認

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の実行時には、システムの一時フォルダが使用されます。システム一時フォルダとは、Windows の TMP 環境変数に設定されているフォルダです。

このため、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の実行ユーザー（PDF 変換ジョブを実行するユーザーにマッピングされている OS ユーザー）に、システム一時フォルダへの書き込み権限が必要です。

PDF 変換ジョブを実行する JP1 ユーザーに、システム一時フォルダへの書き込み権限がある OS ユーザーをマッピングしてください。ユーザーマッピングの詳細は、マニュアル「JP1/Base 運用ガイド」を参照してください。

3

インストールとセットアップ

この章では、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のインストールおよびセットアップについて説明します。

3.1 インストールとセットアップの流れ

3.2 インストール

3.3 環境設定

3.4 障害が発生したときに必要な資料を採取するための設定

3.5 カスタムジョブの登録

3.6 アンインストール

3.1 インストールとセットアップの流れ

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のインストールおよびセットアップでは、次の作業を実施してください。

表 3-1 JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のインストールとセットアップの流れ

作業	作業するホスト	作業内容	必須	参照先
インストール	ジョブ実行ホスト	JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff をインストールします。		3.2
環境設定	ジョブ実行ホスト	JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の運用に合わせて、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の稼働ログに関する設定、および PDF 変換できる拡張子を変更します。		3.3
障害が発生したときに必要な資料を採取するための設定	ジョブ実行ホスト	障害が発生したときに必要な資料を採取するための設定をします。		3.4
PDF 変換ジョブの登録	JP1/AJS2 - View ホスト	PDF 変換ジョブを JP1/AJS2 - View に登録します。		3.5

(凡例)

: 必ず実施します。

: 必要に応じて実施します。

3.2 インストール

この節では、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のインストール方法について説明します。JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のインストールには、媒体からインストールする方法と JP1/NETM/DM を使用してリモートインストールする方法があります。それぞれの方法について説明します。

3.2.1 インストール時の注意事項

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff をインストールする際の注意事項を次に示します。

- ジョブ実行ホストに、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の前提プログラムがインストールされていることを確認してください。JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の前提プログラムについては、「2.2.1 システム構成」を参照してください。
- Administrators 権限を持つユーザーがインストールしてください。
レジストリーキーへの書き込み権限がないユーザーは、インストールできません。
- ターミナルサービスを使用してのインストールはしないでください。
正しくセットアップできないおそれがあります。
- 活文 PDFstaff Client SDK も同時にインストールされることを考慮してください。
JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff をインストールすると、自動的に活文 PDFstaff Client SDK がサイレントインストールされます。ただし、活文 PDFstaff Client SDK がすでにインストールされている場合、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のインストールができません。すでにインストールされている活文 PDFstaff Client SDK をアンインストールした上で JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff をインストールしてください。

3.2.2 新規インストール

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff を新規にインストールする手順を次に示します。

1. JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff をインストールするホストに、Administrators 権限でログインする。
2. すべてのプログラムを終了する。
JP1 シリーズのプログラムが動作している場合、必ず終了してください。
3. JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の媒体をセットする。
HITACHI 総合インストーラーの画面が表示されます。
4. HITACHI 総合インストーラーの指示に従って必要な情報を指定し、インストールする。
インストール時に指定する情報を次に示します。
 - ユーザー情報
ユーザー名などを指定します。
 - インストール先フォルダ

3. インストールとセットアップ

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff をインストールするフォルダを指定します。

インストールしたファイルについては、「付録 A ファイルおよびフォルダー一覧」を参照してください。

3.2.3 上書きインストール

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff をすでにインストールしたホストの状態を修復するために、上書きでインストールする手順を次に示します。

1. JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff をインストールするホストに、Administrators 権限でログインする。
2. すべてのプログラムを終了する。
JP1 シリーズのプログラムが動作している場合、必ず終了してください。
3. JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の媒体をセットする。
上書きインストールの画面が表示されます。
4. 上書きインストールの画面の [次へ] ボタンをクリックする。
上書きインストールの確認画面が表示されます。
5. 上書きインストールの確認画面の [インストール] ボタンをクリックする。
上書きインストールが開始されます。

3.2.4 JP1/NETM/DM を使ったリモートインストール (ソフトウェアの配布)

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff は、JP1/NETM/DM を使ってリモートインストールできません。

次のインストールができます。

- 新規インストール
- 上書きインストール

JP1/NETM/DM を使った実際のリモートインストール方法については、マニュアル「JP1/NETM/DM 運用ガイド 1(Windows(R) 用)」を参照してください。

3.3 環境設定

この節では、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の運用に合わせた環境設定の方法について説明します。

3.3.1 環境設定ファイルの定義方法

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の環境設定は、次の環境設定ファイルを編集することで変更できます。

JP1/AJS2 for 活文PDFstaffのインストール先フォルダ¥settings¥config.xml

環境設定ファイル「config.xml」の定義項目、および各定義項目への設定方法については、「3.3.2 環境設定ファイルに定義できる項目」、および「3.3.3 環境設定ファイルの内容」を参照してください。

環境設定ファイルの変更は、変更したあとに実行される PDF 変換ジョブから適用されません。

3.3.2 環境設定ファイルに定義できる項目

環境設定ファイル「config.xml」の定義項目を次に示します。JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff をインストールしたときには、デフォルト値が設定されていますので、必要に応じて変更してください。

表 3-2 config.xml の項目

タグおよび属性名	定義内容
/config/@version	JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の環境設定ファイルのバージョン情報です。1.0 が設定されています。この値は、変更しないでください。
/config/system/@log_level	<p>JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の稼働ログの出力レベルを次のレベルから選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • error エラーレベルだけが出力されるようにする。 • warn エラーレベルおよび警告レベルが出力されるようにする。 • info エラーレベル、警告レベル、および情報レベルが出力されるようにする。 <p>デフォルトでは、info が設定されています。</p>

3. インストールとセットアップ

タグおよび属性名	定義内容
/config/system/@log_size	<p>稼働ログファイルの最大ファイルサイズを 4,096 ~ 16,777,216 の範囲で設定します。 単位はバイトです。 デフォルトでは 1,048,576 (1 メガバイト) が設定されています。</p> <p>注意 サイズを変更したあと、PDF 変換ジョブの実行を停止している間に、すでに作成されている稼働ログファイルと稼働ログ管理ファイル (JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のインストール先フォルダ ¥log¥mmap¥ajspdfs.mm) を削除してください。</p>
/config/system/@log_num	<p>稼働ログファイルの面数を 2 ~ 16 の整数で設定します。 デフォルトでは 2 が設定されています。 稼働ログファイル名は、「ajspdfs1.log」のように面数を含むファイル名となります。</p> <p>注意 面数を変更したあと、PDF 変換ジョブの実行を停止している間に、すでに作成されている稼働ログファイルと稼働ログ管理ファイル (JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のインストール先フォルダ ¥log¥mmap¥ajspdfs.mm) を削除してください。</p>
/config/system/handleFiles/@extension	<p>PDF 変換できるファイルの拡張子を設定します。 デフォルトでは次の拡張子が設定されています。</p> <p>.pdf , .doc , .xls , .ppt , .vsd , .vdx , .jtd , .jtde , .jtsd , .gif , .jpg , .jpeg , .jpe , .jfif , .png , .tif , .tiff , .bmp , .ps , .eps , .txt , .mht , .mhtml , .igx , .flo , .abc , .af3 , .af2 , .pfd</p> <p>活文 PDFstaff が変換できる拡張子を設定してください。</p>

注 値を変更できない項目です。

3.3.3 環境設定ファイルの内容

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の環境設定ファイルの内容を次に示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<config version="1.0">
  <system
    log_level="info"
    log_size="1048576"
    log_num="2"
  >
    <handleFiles extension="pdf"/>
    <handleFiles extension="doc"/>
    <handleFiles extension="xls"/>
    <handleFiles extension="ppt"/>
    <handleFiles extension="vsd"/>
    <handleFiles extension="vdx"/>
    <handleFiles extension="jtd"/>
    <handleFiles extension="jtcd"/>
    <handleFiles extension="jtsd"/>
    <handleFiles extension="gif"/>
    <handleFiles extension="jpg"/>
    <handleFiles extension="jpeg"/>
    <handleFiles extension="jpe"/>
    <handleFiles extension="jfif"/>
    <handleFiles extension="png"/>
    <handleFiles extension="tif"/>
    <handleFiles extension="tiff"/>
    <handleFiles extension="bmp"/>
    <handleFiles extension="ps"/>
    <handleFiles extension="eps"/>
    <handleFiles extension="txt"/>
    <handleFiles extension="mht"/>
    <handleFiles extension="mhtml"/>
    <handleFiles extension="igx"/>
    <handleFiles extension="flo"/>
    <handleFiles extension="abc"/>
    <handleFiles extension="af3"/>
    <handleFiles extension="af2"/>
    <handleFiles extension="pfd"/>
  </system>
</config>
```

3.4 障害が発生したときに必要な資料を採取するための設定

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff での運用中に障害が発生したときには、原因を特定するために必要な資料を採取する必要があります。JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff では、資料採取コマンド (ajspdfs_log コマンド) を使用して資料を採取します。資料採取コマンドを使用するにはセットアップが必要です。資料採取コマンドのセットアップ方法を次に示します。

1. 資料採取コマンドを任意の別のフォルダにコピーする。
次の資料採取コマンドをコピーします。

```
JP1/AJS2 for 活文PDFstaffのインストール先フォルダ¥tools¥ajspdfs_log.bat
```

2. JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のインストール時にインストール先フォルダを変更した場合、次の設定情報を変更する。

手順 1 でコピーした資料採取コマンドを、テキストエディターを使用して編集します。編集するときは、資料採取コマンドに書き込み権限を設定してください。バッチファイルに記述されている標準値を次に示します。環境に合わせて標準値を変更してください。

```
@set INST_DIR=%SYSTEMDRIVE%¥Program Files¥Hitachi¥JP1AJS2FORPDFS
JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のインストール先フォルダを設定します。「@set
INST_DIR=」以降を編集してください。「%SYSTEMDRIVE%」は、Windows の環
境変数「%SYSTEMDRIVE%」を示します。
```

3. 採取する資料の格納先を変更したい場合は、次の設定情報を変更する。

手順 1 でコピーした資料採取コマンドを、テキストエディターを使用して編集します。編集するときは、資料採取コマンドに書き込み権限を設定してください。バッチファイルに記述されている標準値を次に示します。環境に合わせて標準値を変更してください。

```
@set DIR_BACKLOG=%TEMP%¥JP1AJS2FORPDFS¥backlog
資料採取コマンドで採取した情報の格納先を設定します。「@set
DIR_BACKLOG=」以降を編集してください。「%TEMP%」は、Windows の環境変
数「%TEMP%」を示します。1 ~ 100 バイトの範囲で設定してください。
資料は DIR_BACKLOG に設定したフォルダの下にある JP1_DEFAULT に出力
されます。
```

3.5 カスタムジョブの登録

PDF 変換ジョブを JP1/AJS2 で定義および実行するには、JP1/AJS2 - View にカスタムジョブとして登録しておく必要があります。この節では、PDF 変換ジョブを JP1/AJS2 - View に登録する方法について説明します。

3.5.1 カスタムジョブを登録する手順

PDF 変換ジョブをカスタムジョブとして JP1/AJS2 - View へ登録する手順を次に示します。

1. JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のインストールによって格納される次のファイルを、JP1/AJS2 - View ホストに手動で転送する。
 - JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のインストール先フォルダ `¥bin¥ajspdfsv.exe`
このファイルは、定義プログラムです。JP1/AJS2 - View ホストの任意のフォルダに転送してください。
 - JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のインストール先フォルダ
`¥image¥CUSTOM_PC_AJSPDFS.gif`
このファイルは、PDF 変換ジョブのアイコンファイルです。JP1/AJS2 - View ホストの「JP1/AJS2 - View のインストール先フォルダ `¥image¥custom`」に転送してください。
2. JP1/AJS2 - View ホストに、Administrators 権限でログインする。
3. JP1/AJS2 - View ホストで、すべてのプログラムを終了する。
JP1 シリーズのプログラムが動作している場合、必ず終了してください。
4. JP1/AJS2 - View ホストで、[カスタムジョブ登録] ダイアログボックスを起動する。
Windows のスタートメニューから、[すべてのプログラム] - [JP1 Automatic Job Management System 2 - View] - [カスタムジョブ登録] を選択すると、[カスタムジョブの登録] ダイアログボックスが表示されます。
5. PDF 変換ジョブを新規登録する。
[カスタムジョブの登録] ダイアログボックスの [新規登録] ボタンをクリックすると、[カスタムジョブ登録情報] ダイアログボックスが表示されます。[カスタムジョブ登録情報] ダイアログボックスに、PDF 変換ジョブを登録してください。登録する内容については、「3.5.2 カスタムジョブ登録で指定する内容」を参照してください。
[カスタムジョブ登録情報] ダイアログボックスについては、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 操作ガイド」のダイアログボックスについて説明している章を参照してください。
6. 登録した PDF 変換ジョブの登録を確認する。
JP1/AJS2 - View の [ジョブネットエディタ] ウィンドウを起動して、[カスタムジョ

3. インストールとセットアップ

ブ] タブを選択します。登録した PDF 変換ジョブのアイコン [] が表示されていることを確認してください。

3.5.2 カスタムジョブ登録で指定する内容

PDF 変換ジョブを JP1/AJS2 - View へ登録する場合に必要な項目について説明します。

[名前]

PDF 変換ジョブの名称「AJSPDFS」を指定します。

[コメント]

任意のコメントを指定します。

[定義プログラム]

JP1/AJS2 - View ホストに転送した `ajspdfsv.exe` (PDF 変換ジョブの定義プログラム) を絶対パスで指定します。

[実行プログラム]

ジョブ実行ホスト上にある `ajspdfsa.exe` (PDF 変換ジョブの実行プログラム) を絶対パスで指定します。

また、ワークパスを含めて指定することもできます。

ワークパス変数を設定する方法については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 セットアップガイド」の、ジョブ実行時のワークパスを変数として設定する方法について説明している個所を参照してください。

[バージョン]

「0600」を指定します。

[クラス名]

「AJSPDFS」を指定します。

[ジョブ種別]

[PC ジョブ] を指定します。

3.6 アンインストール

この節では、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff をアンインストールする方法について説明します。

3.6.1 アンインストール時の注意事項

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff をアンインストールする際の注意事項を次に示します。

- 管理者ユーザー（Administrators グループ）でアンインストールしてください。
- ターミナルサービスを使用してのアンインストールはしないでください。
正しくアンインストールできないおそれがあります。
- アンインストールに失敗、またはアンインストールを中止したあと、アンインストールが正しく動作しなくなる場合があります。アンインストールが正しく動作しなくなった場合、一度インストールしたあと、再度アンインストールしてください。

3.6.2 アンインストール

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のアンインストール手順を次に示します。

1. JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff をアンインストールするホストに Administrators 権限でログインする。
2. すべてのプログラムを終了する。
JP1 シリーズのプログラムが動作している場合、必ず終了してください。
3. Windows の [コントロールパネル] で JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff を削除する。
JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff がアンインストールされます。
4. 必要に応じて、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のインストール先フォルダを削除する。

4

操作

この章では、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の操作について説明します。

4.1 対象フォルダの作成と PDF 変換するファイルの格納

4.2 PDF 変換ジョブの定義

4.3 PDF 変換ジョブの実行

4.4 PDF 変換ジョブの実行結果の確認

4.5 PDF 変換ジョブ実行時の注意事項

4.1 対象フォルダの作成と PDF 変換するファイルの格納

PDF 変換ジョブを定義する前に、PDF 変換するファイルを格納する「入力フォルダ」、および変換された PDF ファイルを格納する「出力フォルダ」を作成する必要があります。以降、「入力フォルダ」と「出力フォルダ」を総称して「対象フォルダ」と表記します。

対象フォルダの作成方法を次の表に示します。

表 4-1 対象フォルダの作成方法

対象フォルダの種類	作成するホスト	付与するフォルダ名	作成方法
入力フォルダ	ジョブ実行ホスト	¥in	PDF 変換するファイルを格納するフォルダです。任意の場所に必ず作成してください。 入力フォルダを作成したら、PDF 変換するファイルを必ず格納してください。変換するファイルがない場合、PDF 変換ジョブが正常終了しません。
出力フォルダ	ジョブ実行ホスト	¥out	PDF 変換されたあとの PDF ファイルが格納されるフォルダです。任意の場所に作成してください。なお、作成しなかった場合は、PDF 変換の際に、自動的に作成されます。

注

対象フォルダは、ジョブ実行ホストのローカルディスク上だけでなく、ネットワーク上にも作成できます。

注意事項

対象フォルダは、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の実行ユーザー（PDF 変換ジョブを実行するユーザーにマッピングされている OS ユーザー）が、フォルダの作成、ファイルの移動、およびファイルの作成ができるフォルダにしてください。

4.2 PDF 変換ジョブの定義

この節では、PDF 変換ジョブを定義する方法について説明します。

PDF 変換ジョブの定義では、PDF 変換ジョブのユニット名、ジョブ実行ホスト名、対象フォルダのパス、および接続する活文 PDFstaff サーバの URLなどを定義します。また、運用に合わせてパスワードなどのセキュリティも定義できます。

PDF 変換ジョブで定義する内容と記載個所を次の表に示します。

表 4-2 PDF 変換ジョブで定義する内容と記載個所

定義する内容	記載個所	定義
PDF 変換ジョブを定義する	4.2.1	
PDF ファイルを開くときのパスワードを設定する	4.2.2	
PDF ファイルを印刷や変更などをする際のパスワードなどを設定する	4.2.3	
PDF ファイルにヘッダやフッタを設定する	4.2.4	
PDF ファイルに透かし文字を設定する	4.2.5	
ジョブ実行ホストと活文 PDFstaff サーバ間の通信時間を短縮する	4.2.6	

(凡例)

- : 必ず定義する項目
- : 任意で定義する項目

4.2.1 PDF 変換ジョブの定義方法

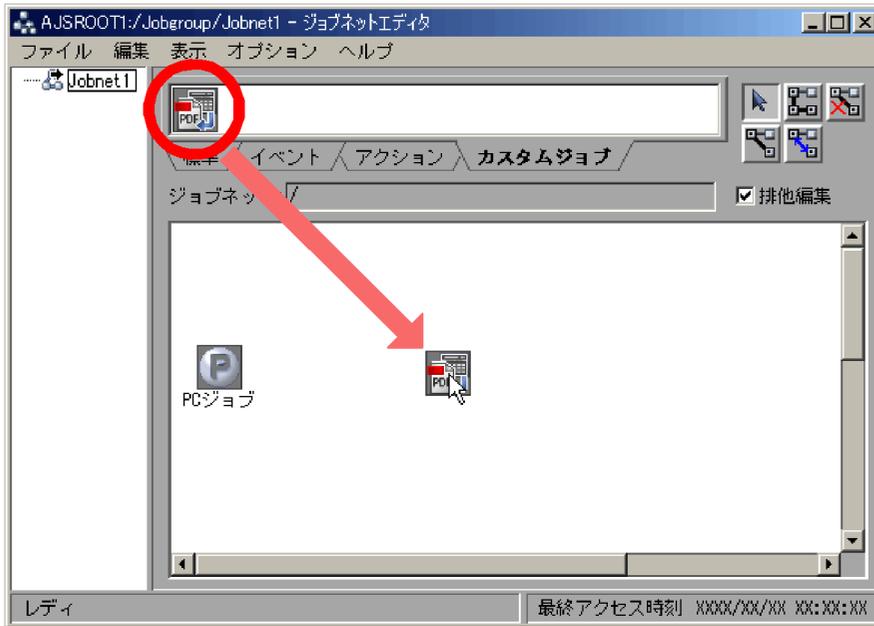
次に示す手順に従って、PDF 変換ジョブを定義してください。

注意事項

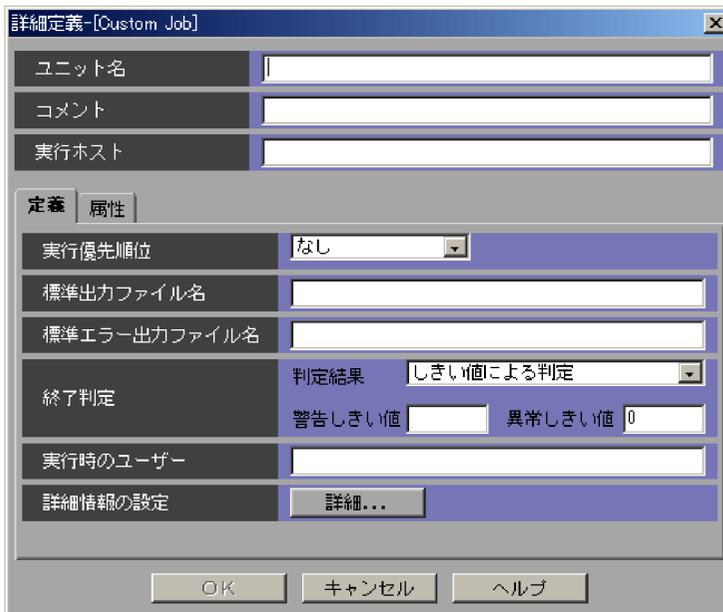
Windows Vista を使用している場合、PDF 変換ジョブの定義で JIS 第 3 水準文字および第 4 水準文字を入力すると、文字が正しく認識されません。JIS 第 3 水準文字および第 4 水準文字は使用しないでください。

1. JP1/AJS2 の [ジョブネットエディタ] ウィンドウのマップエリアを表示する。
2. [カスタムジョブ] タブを選択し、[排他編集] をチェックする。
3. [] アイコンをドラッグし、マップエリアにドロップする。

4. 操作



マップエリアのジョブネットに PDF 変換ジョブが追加され、[詳細定義 - [Custom Job]] ダイアログボックスが表示されます。



4. [詳細定義 - [Custom Job]] ダイアログボックスの共通項目を定義する。
次の表に従って定義してください。

表 4-3 [詳細定義 - [Custom Job]] ダイアログボックスの共通項目の定義方法

項目名	定義方法	指定
[ユニット名]	PDF 変換ジョブのユニット名を 1 ~ 30 バイトの文字列で指定します。	
[コメント]	PDF 変換ジョブのコメントを 1 ~ 80 バイトの文字列で指定します。	
[実行ホスト]	PDF 変換ジョブを実行するジョブ実行ホスト名を 1 ~ 255 バイトの文字列で指定します。	

(凡例)

- : 必ず指定します。
- : 任意で指定します。

5. [詳細定義 - [Custom Job]] ダイアログボックスの [定義] タブで定義する。
次の表に従って定義してください。

表 4-4 [詳細定義 - [Custom Job]] ダイアログボックスの [定義] タブの定義方法

項目名	定義方法	指定
[実行優先順位]	PDF 変換ジョブの実行優先順位を選択します。 JP1/AJS2 から実行するジョブのデフォルトの実行優先順位は低く設定されていますので、必要に応じて PDF 変換ジョブの実行優先順位を変更してください。 ジョブの実行優先順位の変更については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド」のジョブの実行優先順位に関する注意事項を参照してください。	
[標準出力ファイル名]	PDF 変換ジョブを実行するときに使う標準出力ファイル名を 1 ~ 511 バイトの文字列で指定します。ファイル名はフルパスで指定します。	
[標準エラー出力ファイル名]	PDF 変換ジョブを実行するときに使う標準エラー出力ファイル名を 1 ~ 511 バイトの文字列で指定します。ファイル名はフルパスで指定します。	
終了判定 [判定結果]	終了判定の条件を選択します。	
終了判定 [警告しきい値]	PDF 変換対象ファイルがない状態 (JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の終了コードが「1」), および PDF 変換に失敗した状態 (JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の終了コードが「2」) を「異常」として扱う場合は、次のように指定します。	
終了判定 [異常しきい値]	警告しきい値 指定しないでください。 異常しきい値 「0」を指定します。	
[実行時のユーザー]	ジョブ実行ホストの OS のユーザー名を 1 ~ 63 バイトの文字列で指定します。	

4. 操作

項目名	定義方法	指定
[詳細情報の設定]	[詳細] ボタンをクリックすると,[PDF 設定] ダイアログボックスが表示されます。 手順 7 ~ 9 を参照してください。	

(凡例)

: 必ず指定します。

: 任意で指定します。

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の終了コードについては、「4.4.2 JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の終了コード」を参照してください。

6. [詳細定義 - [Custom Job]] ダイアログボックスの [属性] タブで定義する。
次の表に従って定義してください。

表 4-5 [詳細定義 - [Custom Job]] ダイアログボックスの [属性] タブの定義方法

項目名	定義方法	指定
[保留]	ユニットの状態をあらかじめ保留状態にするかどうかを指定します。	
[種別]	ユニットの種別をリカバリーにするかどうかを指定します。	
[打ち切り時間指定]	PDF 変換ジョブの実行を打ち切る時間を指定するかどうかを選択します。	
[打ち切り時間]	[打ち切り時間指定] で [する] を選択した場合、打ち切り時間を分で指定します。指定できる値は、1 ~ 1,440 (単位 : 分) です。 PDF 変換の処理に掛かる時間を考慮し、処理中に PDF 変換ジョブが打ち切りにならないよう注意してください。	
[所有者]	ユニットの所有者を 1 ~ 31 バイトの文字列で指定します。	
[JP1 資源グループ]	JP1 資源グループ名を 1 ~ 63 バイトの文字列で指定します。指定できる文字は、英数字、および「_ (アンダーバー) 」です。空白の場合は、アクセス権限の対象になりません。	
[実行ユーザー種別]	実行ユーザーの種類を選択します。選択できる種類を次に示します。 [登録ユーザー] PDF 変換ジョブを登録した JP1 ユーザーでジョブを実行します。 [所有ユーザー] PDF 変換ジョブを所有している JP1 ユーザーで PDF 変換ジョブを実行します。	

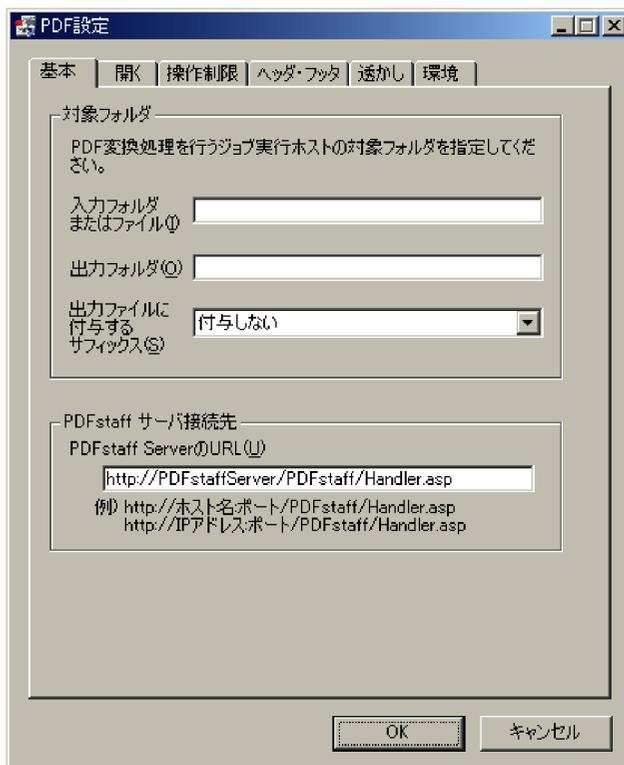
(凡例)

: 任意で指定します。

7. [詳細定義 - [Custom Job]] ダイアログボックスの [定義] タブの [詳細] ボタンを

クリックする。

[PDF 設定] ダイアログボックスが表示されます。



8. [PDF 設定] ダイアログボックスの [基本] タブで定義する。

[基本] タブでは、あらかじめ作成した対象フォルダ、および接続する活文 PDFstaff サーバの URL を指定します。

次の表に従って定義してください。

4. 操作

表 4-6 [PDF 設定] ダイアログボックスの [基本] タブの定義方法

項目名	定義方法	指定
対象フォルダ	<p>[入力フォルダまたはファイル]</p> <p>PDF 変換するファイルを格納する入力フォルダまたは PDF 変換するファイルを指定します。</p> <p>ネットワーク上のフォルダを指定する場合は、UNC 形式で指定します。ジョブ実行ホストのローカルディスク上のフォルダを指定する場合は、絶対パスで指定します。UNC 形式および絶対パスの書式は次のとおりです。</p> <p>UNC 形式 ￥￥ ホスト名 ¥ フォルダ名 ¥ ファイル名</p> <p>絶対パス ドライブ文字 : ¥ フォルダ名 ¥ ファイル名</p> <p>フォルダ名までを必ず指定してください。ファイル名は省略できます。</p> <p>指定できる文字列の長さは、どちらの場合も 1 ~ 256 バイトです。</p> <p>フォルダ名およびファイル名には「*」、「?」などのワイルドカード、「<」、「>」、「 」、「:」を使用できません。</p> <p>また、「¥t」のような制御文字を使用した場合は、空白に置き換えられます。</p> <p>なお、フォルダおよびファイルの指定には、JP1/AJS2 のマクロ変数を使用できます。マクロ変数を使用した運用例については「付録 C 運用例」を参照してください。</p>	
[出力フォルダ]	<p>PDF 変換したファイルを格納する出力フォルダを指定します。</p> <p>ネットワーク上のフォルダを指定する場合は、UNC 形式で指定します。ジョブ実行ホストのローカルディスク上のフォルダを指定する場合は、絶対パスで指定します。UNC 形式および絶対パスの書式は次のとおりです。</p> <p>UNC 形式 ￥￥ ホスト名 ¥ フォルダ名</p> <p>絶対パス ドライブ文字 : ¥ フォルダ</p> <p>指定できる文字列の長さは、どちらの場合も 1 ~ 256 バイトです。</p> <p>フォルダ名には「*」、「?」などのワイルドカード、「<」、「>」、「 」、「:」を使用できません。</p> <p>また、「¥t」のような制御文字を使用した場合は、空白に置き換えられます。</p> <p>なお、フォルダの指定には、JP1/AJS2 のマクロ変数を使用できます。マクロ変数を使用した運用例については「付録 C 運用例」を参照してください。</p>	

項目名	定義方法	指定
[出力ファイルに付与するサフィックス]	<p>出力ファイルに付与するサフィックスを次の中から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 付与しない 処理日 YYYYMMDD 形式で付与されます。(YYYY : 年, MM : 月, DD : 日) 処理日時 YYYYMMDDHHMMSS 形式で付与されます。(YYYY : 年, MM : 月, DD : 日, HH : 時, MM : 分, SS : 秒) <p>サフィックスを指定すると、出力ファイル名は「PDF 変換対象ファイル<サフィックス>.pdf」となります。</p>	
PDFstaff サーバ接続 先	<p>[PDFstaff Server の URL]</p> <p>接続する活文 PDFstaff サーバの URL を 1 ~ 255 バイトの文字列で指定します。入力できる文字列は、半角英数字だけです。 デフォルトでは、次の URL が設定されています。 http://PDFstaffServer/PDFstaff/Handler.asp</p>	

(凡例)

- : 必ず指定します。
- : 任意で指定します。

運用に合わせて PDF ファイルに設定するパスワードなどのセキュリティも定義できます。詳細については、4.2.2 ~ 4.2.6 を参照してください。

- [PDF 設定] ダイアログボックスの [OK] ボタンをクリックする。
[詳細定義 - [Custom Job]] ダイアログボックスに戻ります。
- 指定した内容を確認し、[詳細定義 - [Custom Job]] ダイアログボックスの [OK] ボタンをクリックする。
[ジョブネットエディタ] ウィンドウに PDF 変換ジョブが定義されます。

4.2.2 PDF ファイルに設定するパスワードを定義する (任意)

PDF ファイルを開く際のパスワードを設定したい場合は、[PDF 設定] ダイアログボックスの [開く] タブで次に示す定義をしてください。

図 4-1 [PDF 設定] ダイアログボックスの [開く] タブ

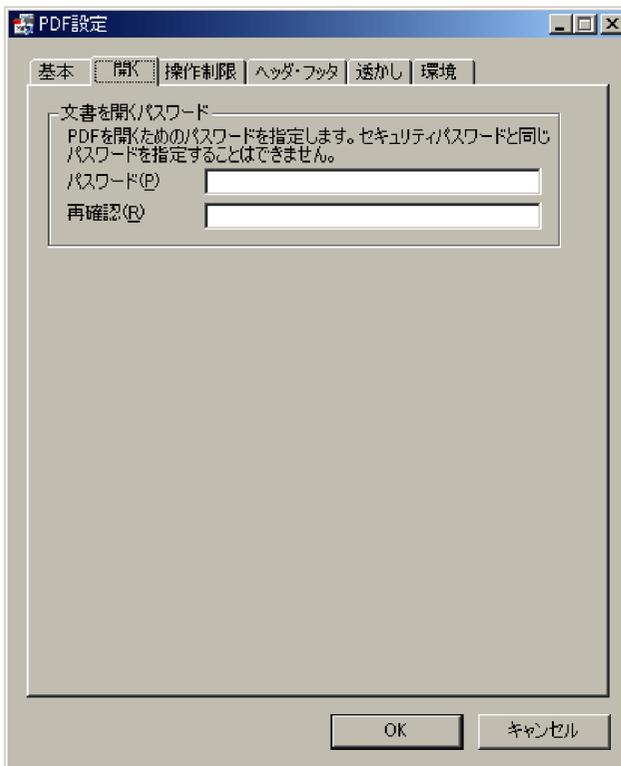


表 4-7 [PDF 設定] ダイアログボックスの [開く] タブの定義方法

項目名	定義方法
文書を開く パスワード	[パスワード] PDF ファイルを開くパスワードを半角文字で指定します。指定できる文字列の長さは 1 ~ 32 バイトです。パスワードには、「&」、「<」、「{」、および半角スペースを使用できません。また、[操作制限] タブで指定するセキュリティパスワードと同じ文字列は指定できません。入力した値は「*」で表示されます。
	[再確認] 確認のため、[パスワード] と同一の文字列を指定します。

4.2.3 PDF ファイルに設定するセキュリティを定義する（任意）

PDF ファイルを印刷したり、変更したりする際のセキュリティに関する設定をしたい場合は、[PDF 設定] ダイアログボックスの [操作制限] タブで次に示す定義をしてください。

図 4-2 [PDF 設定] ダイアログボックスの [操作制限] タブ

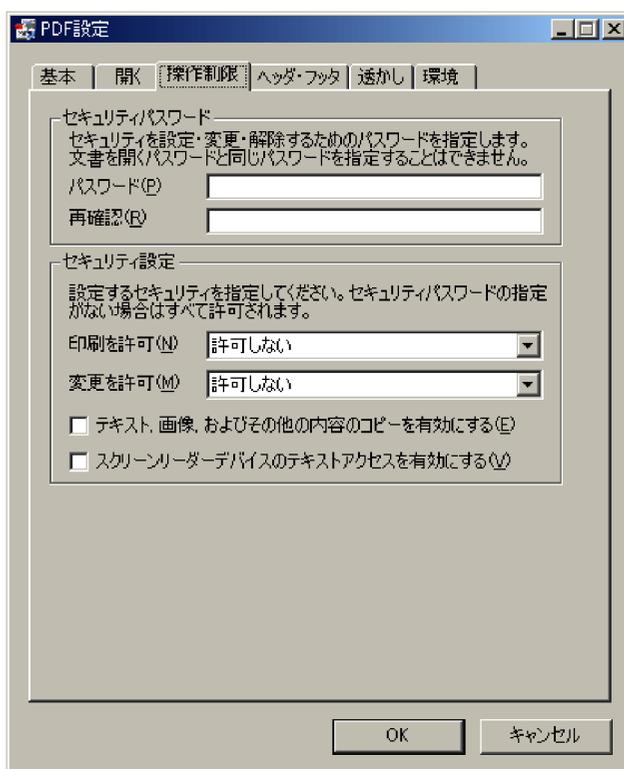


表 4-8 [PDF 設定] ダイアログボックスの [操作制限] タブの定義方法

項目名	定義方法
セキュリティパスワード	<p>[パスワード]</p> <p>変換された PDF ファイルのセキュリティを設定、変更、および解除する際に必要なパスワードを半角文字で指定します。</p> <p>指定できる文字列の長さは 1 ~ 32 バイトです。</p> <p>パスワードには、「&」、「<」、「{」、および半角スペースを使用できません。また、[開く] タブで指定する文書を開くパスワードと同じ文字列は指定できません。</p> <p>入力した値は「*」で表示されます。</p>
	<p>[再確認]</p> <p>確認のため、[パスワード] と同一の文字列を指定します。</p>

4. 操作

項目名	定義方法
セキュリティ設定	<p>[印刷を許可]</p> <p>変換された PDF ファイルの印刷を許可するレベルを指定します。 セキュリティパスワードを指定していない場合には、この項目を指定しても無効になり、作成される PDF ファイルの動作は、PDF の仕様に従います。 指定できるレベルは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 許可しない 印刷を許可しません。 • 低解像度 文書を印刷するときの解像度が 150dpi に制限されます。 • 高解像度 任意の解像度で印刷でき、PostScript や高品質の印刷機能をサポートするそのほかのプリンタに高品質のベクトル出力ができます。
	<p>[変更を許可]</p> <p>PDF ファイルの編集を許可するレベルを指定します。 セキュリティパスワードを指定していない場合には、この項目を指定しても無効になり、作成される PDF ファイルの動作は、PDF の仕様に従います。 指定できるレベルは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 許可しない 編集を許可しません。 • ページの挿入、削除、回転 ページの挿入、削除および回転、また、しおりとサムネールの作成を許可します。 • フォームフィールドの入力と既存の署名フィールドに署名 フォームの入力と電子署名の追加ができます。ただし、注釈の追加およびフォームフィールドの作成はできません。 • 注釈の作成、フォームフィールドの入力、および既存の署名フィールドに署名 フォームの入力と電子署名および注釈の追加ができます。 • ページの抽出を除くすべての操作 ページの抽出以外の変更ができます。
[テキスト、画像、およびその他の内容のコピーを有効にする]	<p>変換された PDF ファイルのテキスト、画像、およびその他の内容のコピーを有効にする場合はチェックします。 この項目をチェックすると、[スクリーンリーダーデバイスのテキストアクセスを有効にする] もチェックされます。 セキュリティパスワードを指定していない場合には、この項目を指定しても無効になり、作成される PDF ファイルの動作は、PDF の仕様に従います。</p>
[スクリーンリーダーデバイスのテキストアクセスを有効にする]	<p>変換された PDF ファイルのスクリーンリーダーデバイスのアクセスを有効にする場合はチェックします。 [テキスト、画像、およびその他の内容のコピーを有効にする] をチェックすると、この項目はチェックされた状態になり変更できません。 セキュリティパスワードを指定していない場合には、この項目を指定しても無効になり、作成される PDF ファイルの動作は、PDF の仕様に従います。</p>

4.2.4 PDF ファイルに設定するヘッダおよびフッタを定義する（任意）

PDF ファイルのヘッダおよびフッタの表示に関する設定をしたい場合は、[PDF 設定] ダイアログボックスの [ヘッダ・フッタ] タブで次に示す定義をしてください。

図 4-3 [PDF 設定] ダイアログボックスの [ヘッダ・フッタ] タブ

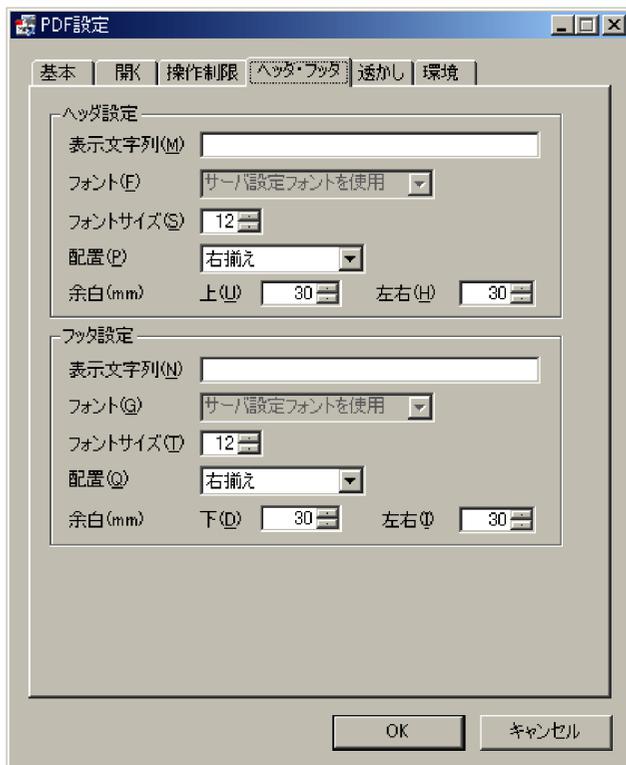


表 4-9 [PDF 設定] ダイアログボックスの [ヘッダ・フッタ] タブの定義方法

項目名	定義方法
ヘッダ設定	
[表示文字列]	ヘッダに表示する文字列を指定します。 指定できる文字列の長さは 1 ~ 100 バイトです。 日付変数およびページ変数を使用できます。日付変数およびページ変数については、「付録 B 日付変数とページ変数一覧」を参照してください。
[フォント]	この項目は指定できません。「サーバ設定フォントを使用」が常に指定されています。
[フォントサイズ]	ヘッダに表示する文字列のフォントサイズを指定します。 指定できる値の範囲は 1 ~ 72 です。 なお、ヘッダ設定の [表示文字列] を指定していない場合は、この項目を指定しても無効になります。

4. 操作

項目名	定義方法
[配置]	<p>ヘッダに表示する文字列の位置を指定します。 指定できる項目は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 左揃え ヘッダ文字列が左揃えで表示されます。 • 中央 ヘッダ文字列が中央に表示されます。 • 右揃え ヘッダ文字列が右揃えで表示されます。 <p>なお、ヘッダ設定の [表示文字列] を指定していない場合は、この項目を指定しても無効になります。</p>
[余白 (上)]	<p>ヘッダの上の余白を指定します。 指定できる値の範囲は、0 ~ 5,080mm です。 なお、ヘッダ設定の [表示文字列] を指定していない場合は、この項目を指定しても無効になります。</p>
[余白 (左右)]	<p>ヘッダの左右の余白を指定します。 指定できる値の範囲は、0 ~ 2,540mm です。 なお、ヘッダ設定の [表示文字列] を指定していない場合は、この項目を指定しても無効になります。</p>
フッタ設定	<p>[表示文字列]</p> <p>フッタに表示する文字列を指定します。 指定できる文字列の長さは 1 ~ 100 バイトです。 日付変数およびページ変数を使用できます。日付変数およびページ変数については、「付録 B 日付変数とページ変数一覧」を参照してください。</p>
[フォント]	<p>この項目は指定できません。「サーバ設定フォントを使用」が常に指定されています。</p>
[フォントサイズ]	<p>フッタに表示する文字列のフォントサイズを指定します。 指定できる値の範囲は 1 ~ 72 です。 なお、フッタ設定の [表示文字列] を指定していない場合は、この項目を指定しても無効になります。</p>
[配置]	<p>フッタに表示する文字列の位置を指定します。 指定できる項目は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 左揃え フッタ文字列が左揃えで表示されます。 • 中央 フッタ文字列が中央に表示されます。 • 右揃え フッタ文字列が右揃えで表示されます。 <p>なお、フッタ設定の [表示文字列] を指定していない場合は、この項目を指定しても無効になります。</p>
[余白 (下)]	<p>フッタの下の余白を指定します。 指定できる値の範囲は、0 ~ 5,080mm です。 なお、フッタ設定の [表示文字列] を指定していない場合は、この項目を指定しても無効になります。</p>
[余白 (左右)]	<p>フッタの左右の余白を指定します。 指定できる値の範囲は、0 ~ 2,540mm です。 なお、フッタ設定の [表示文字列] を指定していない場合は、この項目を指定しても無効になります。</p>

4.2.5 PDF ファイルに設定する透かし文字を定義する（任意）

PDF ファイルの透かし表示に関する設定をしたい場合は、[PDF 設定] ダイアログボックスの [透かし] タブで次に示す定義をしてください。

図 4-4 [PDF 設定] ダイアログボックスの [透かし] タブ

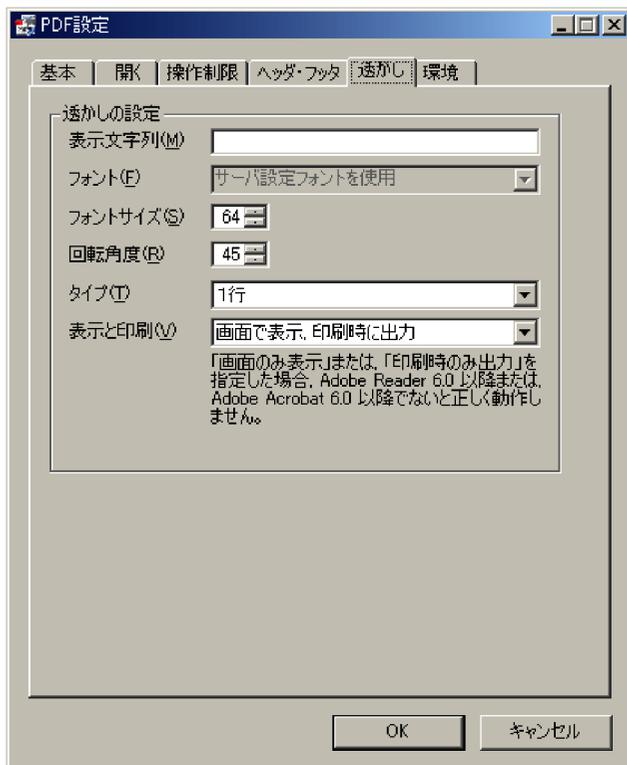


表 4-10 [PDF 設定] ダイアログボックスの [透かし] タブの定義方法

	項目名	定義方法
透かしの設定	[表示文字列]	透かし文字として表示する文字列を指定します。指定できる文字列の長さは 1 ~ 50 バイトです。 日付変数およびページ変数を使用できます。日付変数およびページ変数については、「付録 B 日付変数とページ変数一覧」を参照してください。
	[フォント]	この項目は指定できません。「サーバ設定フォントを使用」が常に指定されています。
	[フォントサイズ]	透かし文字として表示する文字列のフォントサイズを指定します。指定できる値の範囲は 1 ~ 72 です。 なお、[表示文字列] を指定していない場合は、この項目を指定しても無効になります。

4. 操作

項目名	定義方法
[回転角度]	透かし文字として表示する文字列の角度を指定します。 指定できる値の範囲は 0 ~ 359 度です。 なお,[表示文字列] を指定していない場合は, この項目を指定しても無効になります。
[タイプ]	透かし文字の表示タイプを指定します。 指定できる項目は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• 1 行 透かし文字列が 1 行で表示されます。• 全面 透かし文字列が全面に表示されます。 なお,[表示文字列] を指定していない場合は, この項目を指定しても無効になります。
[表示と印刷]	透かし文字の表示と印刷方法を指定します。 指定できる項目は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• 画面で表示, 印刷時に出力 透かし文字列が画面に表示され, 印刷時に出力されません。• 画面だけ表示 透かし文字列が画面に表示されますが, 印刷時には出力されません。• 印刷時だけ出力 透かし文字列が印刷時にだけ出力されます。 なお,[表示文字列] を指定していない場合は, この項目を指定しても無効になります。

4.2.6 ジョブ実行ホストと活文 PDFstaff サーバとの通信時間を短縮する (任意)

ジョブ実行ホストと活文 PDFstaff サーバとの通信時間を短縮したい場合は,[PDF 設定] ダイアログボックスの [環境] タブで次に示す定義をしてください。

図 4-5 [PDF 設定] ダイアログボックスの [環境] タブ

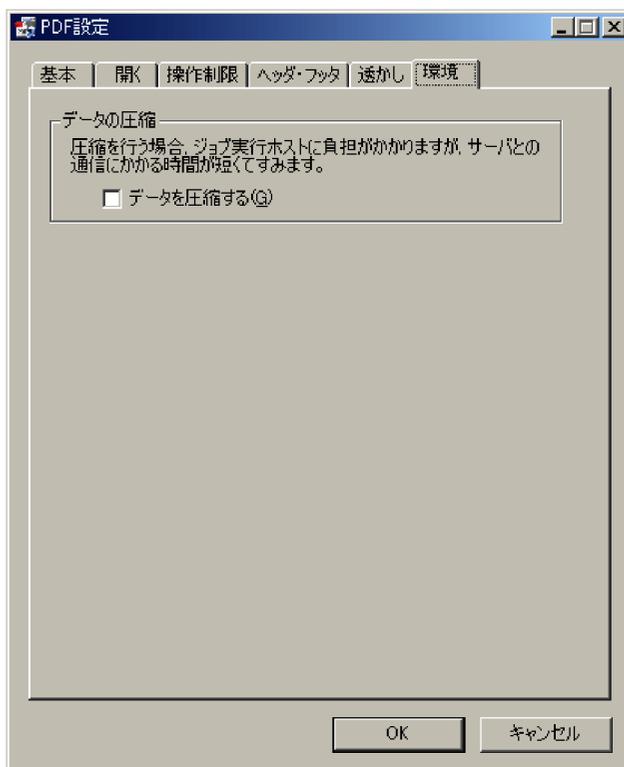


表 4-11 [PDF 設定] ダイアログボックスの [環境] タブの定義方法

項目名	定義方法
データの圧縮	[データを圧縮する]
	ジョブ実行ホストと活文 PDFstaff サーバとの間で、ファイルを圧縮送信する場合はチェックします。圧縮すると、ジョブ実行ホストと活文 PDFstaff サーバとの通信に掛かる時間が短縮されます。ただし、ジョブ実行ホストに掛かる負荷は増大します。

4.3 PDF 変換ジョブの実行

ここでは、定義した PDF 変換ジョブを実行する前に確認しておく項目、および PDF 変換ジョブを実行する操作について説明します。

4.3.1 PDF 変換ジョブを実行する前の確認

PDF 変換の実行後、ファイル名は「変換対象ファイル名.pdf」となります。すでに同じファイル名の PDF ファイルが出力フォルダにあった場合、すでにあったファイルは上書きされます。例えば、入力フォルダに test.txt と test.doc がある場合、変換された PDF ファイル名は両方とも test.pdf となるため、先に処理したファイルがあとから処理したファイルに上書きされます。同じファイル名が付いていないか、または上書きされても問題がないかどうか、必ず確認してください。

参考

同じ PDF 変換ジョブを繰り返し定期的に実行する場合は、変換後のファイル名にサフィックスを付与する設定をしておく、ファイル名の重複を防止できます。サフィックスを付与する設定の詳細は、「4.2.1 PDF 変換ジョブの定義方法」を参照してください。

4.3.2 ジョブネットの実行登録

PDF 変換ジョブ、および PDF 変換ジョブを含むジョブネットの定義が終了したら、JP1/AJS2 - View でジョブネットを実行登録します。

ジョブネットの実行登録の操作については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 操作ガイド」を参照してください。

4.4 PDF 変換ジョブの実行結果の確認

ここでは、PDF 変換ジョブの実行状況および実行結果の確認方法を説明します。

4.4.1 PDF 変換ジョブの実行状況を確認する

PDF 変換ジョブの実行状況の確認方法については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド」の、運用について説明している章を参照してください。

4.4.2 JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の終了コード

PDF 変換ジョブが正常に実行されたかどうかは、PDF 変換ジョブの終了コードによって判断できます。PDF 変換ジョブの終了コードは、JP1/AJS2 - View の [ジョブネットモニタ] ウィンドウを使って確認できます。終了コードの確認方法についての詳細は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 操作ガイド」の [ジョブネットモニタ] ウィンドウを使ってジョブの実行状態を確認する方法について説明している箇所を参照してください。

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の終了コードを次の表に示します。

表 4-12 JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の終了コード

終了コード	情報レベル	コードの意味	JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の動作
0	正常	入力フォルダにある全ファイルの PDF 変換が成功したことを示します。	-
1	警告 (情報レベル)	入力フォルダに PDF 変換の対象となるファイルがないため、PDF 変換ができなかったことを示します。	処理が続行されます。処理の続行中に、さらに重要な問題が発生した場合は、そのレベルの終了コードが出力されます。
2	警告 (調査が必要であるレベル)	次のような原因で、PDF 変換ができなかったことを示します。 <ul style="list-style-type: none"> • 入力フォルダに、PDF 変換できないファイル形式のファイルがある • PDF 変換ホスト側でエラーが発生して PDF 変換処理に失敗した 	処理が続行されます。処理の続行中に、さらに重要な問題が発生した場合は、そのレベルの終了コードが出力されます。

4. 操作

終了コード	情報レベル	コードの意味	JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の動作
9	異常	次のような原因で、PDF 変換ジョブの実行が中断されたことを示します。 <ul style="list-style-type: none">• 対象フォルダがない• 活文 PDFstaff サーバとの通信障害が発生した• 環境設定ファイル config.xml の内容に不正がある	処理が中断されます。

(凡例)

- : 該当する動作がありません。

警告や異常の終了コードが出力されたら、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の稼働ログに出力されたメッセージで原因を確認し、対処してください。JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のメッセージおよび対処方法については、「6. メッセージ」を参照してください。

4.5 PDF 変換ジョブ実行時の注意事項

ここでは、PDF 変換ジョブ実行時の注意事項について説明します。

4.5.1 PDF 変換ジョブ実行中の注意事項

PDF 変換ジョブ実行中の注意事項を次に示します。

- JP1/AJS2 で PDF 変換ジョブの実行をキャンセルすると、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff は強制終了します。ただし、強制終了前にリクエストした分の PDF 変換は実行されます。
- PDF 変換ジョブの実行開始後に入力フォルダにファイルを追加した場合、追加したファイルは PDF 変換されません。

4.5.2 実行結果が異常または警告だった場合の対処

終了コードを参照して問題の原因を調査し、対策をしてから再実行してください。

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の終了コードについては、「4.4.2 JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の終了コード」を参照してください。

4.5.3 ログファイルの参照に関する注意事項

ログファイルを参照する場合、コピーしたログファイルを参照するようにしてください。エディターによっては排他制御してしまうため、ログファイルが正常に出力されないおそれがあります。

5

クラスタシステムの環境構築と運用

この章では、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff をクラスタシステムで運用する場合の環境構築，および運用時の留意点について説明します。

5.1 クラスタシステムの環境構築

5.2 系切り替え時の動作と回復手順

5.1 クラスタシステムの環境構築

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff は、JP1/AJS2 のシステム上で動作する製品のため、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のクラスタシステムの構成および前提条件は、JP1/AJS2 に従います。JP1/AJS2 のクラスタシステムを構築したあと、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff を JP1/AJS2 のクラスタシステムにインストールし、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff に必要な設定をします。

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のクラスタ構成は、JP1/AJS2 のアクティブ・スタンバイ構成です。JP1/AJS2 のシステム構成・前提条件、アクティブ・スタンバイの構成などについては、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド」の、クラスタシステムでの運用の章を参照してください。

この節では、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のクラスタシステムを構築する手順のうち、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のインストールおよびセットアップについて説明します。

(1) インストール

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff は、物理ホストごとにインストールします。インストールについては、「3. インストールとセットアップ」を参照してください。

! 注意事項

共有ディスクにはインストールしないでください。

(2) セットアップ

セットアップは物理ホストごとに実施します。JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のセットアップについては、「3. インストールとセットアップ」を参照してください。

(3) 環境設定

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の環境設定ファイルの内容は、クラスタシステムの物理ホストごとに一致させてください。

環境設定ファイルについては、「3.3 環境設定」を参照してください。

5.2 系切り替え時の動作と回復手順

この節では、系切り替え時の PDF 変換ジョブの状態、および回復手順について説明します。

実行系のジョブ実行ホストに障害が発生すると、系切り替えが実行され、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の処理も待機系のジョブ実行ホストに移ります。

系切り替え後、待機系のジョブ実行ホストで、実行系で発生した障害の回復を実施してください。

障害を回復したら、次の手順で待機系の PDF 変換ジョブを再実行してください。

1. JP1/AJS2 - View で、待機系の PDF 変換ジョブの実行状態を確認する。
実行系で障害が発生した時点の実行状態は、待機系にフェールオーバーすると引き継がれません。例えば、実行系で障害が発生したときに実行中だった PDF 変換ジョブの状態は、待機系にフェールオーバーすると「強制終了」状態になります。フェールオーバーしたときのジョブの実行状態については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド」の、JP1/AJS2 起動時の動作を一時的に変更する方法について説明している個所を参照してください。
2. 必要に応じて、PDF 変換ジョブを再実行する。

6

メッセージ

この章では、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff が出力するメッセージについて説明します。

6.1 メッセージの分類

6.2 メッセージの出力形式

6.3 メッセージの記載形式

6.4 メッセージの出力先

6.5 メッセージ一覧

6.1 メッセージの分類

運用中，JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のメッセージだけでなく，前提プログラムである JP1/Base や JP1/AJS2 のメッセージも出力されます。

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff，JP1/Base，および JP1/AJS2 のそれぞれが出力するメッセージの説明が，どこに記載されているかをメッセージ ID ごとに次の表に示します。

表 6-1 メッセージの記載先

メッセージ ID	メッセージが記載されている個所
KNAP で始まるメッセージ	「6.5 メッセージ一覧」
KAJP で始まるメッセージ	マニュアル「JP1/Base メッセージ」
KAVA で始まるメッセージ	
KAVB で始まるメッセージ	マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 メッセージ」
KAVC で始まるメッセージ	
KAVS で始まるメッセージ	
KAVT で始まるメッセージ	
KAVU で始まるメッセージ	
KAVV で始まるメッセージ	

6.2 メッセージの出力形式

メッセージは、メッセージ ID とそれに続くメッセージテキストで構成されます。次に、メッセージの形式を示します。

KNAPnnnn-Z メッセージテキスト

メッセージ ID は次の内容を示しています。

K

システム識別子を示します。

NAP

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のメッセージであることを示します。

nnnn

メッセージの通し番号を示します。

Z

メッセージの種類を示します。

- E: エラー
処理は中止されます。ただし、コマンドで複数の任意名を指定した場合、それぞれの任意名の処理に対して出力されて、コマンドの処理は続行されます。
- W: 警告
メッセージ出力後、処理は続けられます。
- I: 通知
ユーザーに情報を知らせます。
- Q: 応答要求
ユーザーに応答を促します。

6.3 メッセージの記載形式

このマニュアルでのメッセージの記載形式について説明します。

「**」**で囲まれている部分は、メッセージが表示されるたびに表示内容が変わる個所を示しています。また、メッセージをメッセージ ID 順に記載しています。

記載形式を次に示します。

メッセージ ID

メッセージテキスト

メッセージの説明文

(S)

システムの処置を示します。

(O)

メッセージが出力されたときに、オペレーターの取る処置を示します。

6.4 メッセージの出力先

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff が出力するメッセージの種類ごとに、出力先を一覧で示します。メッセージの種類によって出力先が異なるため、注意してください。

表中では、出力先を凡例のように表記しています。

(凡例)

イベントログ：Windows イベントログ

stdout：標準出力

stderr：標準エラー出力

稼働ログ：JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の稼働ログファイル

ダイアログ：メッセージダイアログボックス

：出力する

-：出力しない

注

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の稼働ログファイルは次の場所に格納されています。

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のインストール先フォルダ ¥log

なお、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のインストール先フォルダは、デフォルトでは「システムドライブ ¥Program Files¥Hitachi¥JP1AJS2FORPDFS¥」です。

表 6-2 メッセージの出力先一覧

メッセージ ID	出力先				
	イベントログ	stdout	stderr	稼働ログ	ダイアログ
KNAP5001-W ~ KNAP5903-W	-	-	-	-	
KNAP6001-I ~ KNAP6052-E	-	-			-
KNAP6058-I	-	-	-		-
KNAP6061-E	-	-			-
KNAP6071-E	-	-		-	-
KNAP6072-E ~ KNAP6903-E	-	-			-

6.5 メッセージ一覧

KNAP5001-W

入力フォルダまたはファイルに指定できるのは 256 バイトまでです。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

入力フォルダまたはファイルに 256 バイト以下の文字列を設定してください。

KNAP5002-W

出力フォルダに指定できるのは 256 バイトまでです。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

出力フォルダに 256 バイト以下の文字列を設定してください。

KNAP5011-W

PDFstaff Server の URL に指定できるのは 255 文字までです。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

活文 PDFstaff サーバの URL に 255 バイト以下の半角英数字を設定してください。

KNAP5012-W

PDFstaff Server の URL は半角文字のみ使用可能です。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

活文 PDFstaff サーバの URL に 255 バイト以下の半角英数字を設定してください。

KNAP5021-W

パスワードに指定できるのは 32 バイトまでです。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

文書を開くパスワードまたはセキュリティパスワードに 32 バイト以下の文字列を設定してください。

KNAP5022-W

パスワードに指定できるのは &, <, {, および半角スペースを除く半角文字のみです。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

文書を開くパスワードまたはセキュリティパスワードに「&」、「<」、「{」、および半角スペースを除く半角文字だけを設定してください。

KNAP5023-W

文書を開くパスワードとセキュリティパスワードに同じパスワードを指定することはできません。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

文書を開くパスワードとセキュリティパスワードに異なるパスワードを設定してください。

KNAP5024-W

パスワードが一致していません。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

文書を開くパスワードまたはセキュリティパスワードと再確認の指定を一致させてください。

KNAP5031-W

表示文字列に指定できるのは 100 バイトまでです。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

ヘッダまたはフッタの表示文字列に 100 バイト以下の文字列を設定してください。

KNAP5032-W

フォントサイズは 1 ~ 72 の範囲で指定してください。

6. メッセージ

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

ヘッダおよびフッタのフォントサイズは 1 ~ 72 の範囲で指定してください。

KNAP5033-W

余白の上下は 0 ~ 5080 の範囲で指定してください。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

ヘッダの上およびフッタの下の余白は 0 ~ 5,080 の範囲で指定してください。

KNAP5034-W

余白の左右は 0 ~ 2540 の範囲で指定してください。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

ヘッダおよびフッタの左右の余白は 0 ~ 2,540 の範囲で指定してください。

KNAP5035-W

表示文字列に指定できるのは 50 バイトまでです。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

透かし文字の表示文字列は 50 バイト以下の文字列で指定してください。

KNAP5036-W

フォントサイズは 1 ~ 72 の範囲で指定してください。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

透かし文字のフォントサイズは 1 ~ 72 の範囲で指定してください。

KNAP5037-W

回転角度は 0 ~ 359 の範囲で指定してください。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

透かし文字の回転角度は 0 ~ 359 の範囲で指定してください。

KNAP5501-W

入力フォルダまたはファイルが指定されていません。

(S)

エラー項目の設定タブを表示し、入力画面に戻ります。

(O)

入力フォルダまたはファイルは必須項目のため必ず指定してください。

KNAP5502-W

出力フォルダが指定されていません。

(S)

エラー項目の設定タブを表示し、入力画面に戻ります。

(O)

出力フォルダは必須項目のため必ず指定してください。

KNAP5511-W

PDFstaff Server の URL が指定されていません。

(S)

エラー項目の設定タブを表示し、入力画面に戻ります。

(O)

活文 PDFstaff サーバの URL は必須項目のため必ず指定してください。

KNAP5901-W

JP1/AJS2 - View のライブラリにおいてエラーが発生しました。位置 =" エラーが発生した関数名
" 詳細 =" エラー内容 "(" エラーコード ")

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

JP1/AJS2 - View が正しくインストールされていない場合に発生します。

JP1/AJS2 - View がすでにインストールされている場合、JP1/AJS2 - View ホストの動作環境に問題があるおそれがあります。JP1/AJS2 - View をインストールし直してください。

6. メッセージ

KNAP5902-W

メモリが不足しています。他のプログラムを終了し再実行してください。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

ほかのプログラムを終了し、再実行してください。

KNAP5903-W

システムリソースが不足しています。他のプログラムを終了し再実行してください。

(S)

入力画面に戻ります。

(O)

ほかのプログラムを終了し、再実行してください。

KNAP6001-I

ジョブを開始します。

Name=" ジョブ名 ":" 実行 ID",JOBID=" ジョブ番号 ",Manager=" マネージャーホスト名
",Scheduler=" スケジューラーサービス名 "

(S)

ジョブを開始します。

KNAP6002-I

ジョブが終了しました。終了コード " 終了コード "

(S)

ジョブを終了します。

KNAP6003-I

PDF 変換処理に成功しました。File=" 文書のファイル名 "

(S)

システムの処置は特にありません。

KNAP6004-W

PDF 変換できませんでした。File=" エラーが発生したファイル名 "

(S)

その文書の PDF 変換処理を終了し、次の文書の PDF 変換処理に移ります (終了
コード : 2)。

(O)

PDF 変換できなかった場合に発生します。ほかのメッセージを参照し、エラー状況を確認してください。

KNAP6011-W

PDF 変換するファイルがありません。Folder=" 入力フォルダのパス "

(S)

変換するファイルがないため、そのまま処理を終了します (終了コード: 1)。

(O)

入力フォルダにファイルがない場合に発生します。対象フォルダの設定、または業務バッチの設定を確認して、再実行してください。

KNAP6012-W

PDF 変換できない文書が含まれています。Folder=" 入力フォルダのパス ",File="PDF 変換できない文書のファイル名 "

(S)

その文書の PDF 変換処理を終了し、次の文書の PDF 変換処理に移ります (終了コード: 2)。

(O)

入力フォルダにあるファイルの拡張子が config.xml ファイルに設定されていない場合に発生します。活文 PDFstaff サーバで PDF 変換できるファイル形式は、config.xml ファイルに設定してください。または、入力フォルダには、PDF 変換できない形式のファイルは格納しないでください。

KNAP6021-E

レジストリの読み込みに失敗しました。

(S)

処理を終了します (終了コード: 9)。

(O)

インストールの失敗、レジストリーの削除などによって、必要なレジストリー情報が読み込めない場合に発生します。レジストリーを正常な状態にするために、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff を再インストールしてください。

KNAP6031-E

config.xml ファイルが開けません。config="config.xml のファイルパス", 詳細情報 =" エラー内容 "(" エラーコード ")

(S)

6. メッセージ

処理を終了します (終了コード: 9)。

(O)

config.xml にアクセスできなかった場合に発生します。config.xml のアクセス権限を確認してください。

KNAP6032-E

config.xml ファイルの読み込みに失敗しました。config="config.xml のファイルパス "

(S)

処理を終了します (終了コード: 9)。

(O)

config.xml が見つからない, または config.xml の XML 構文が正しくない場合に発生します。構文の誤りを特定し, config.xml を修正してください。config.xml の設定については, 「3.3.3 環境設定ファイルの内容」を参照してください。

KNAP6033-E

config.xml ファイルの内容に誤りがあるため処理できません。config="config.xml のファイルパス ", Element=" 誤りのあるエレメント名 "

(S)

処理を終了します (終了コード: 9)。

(O)

config.xml の内容に誤りがある場合に発生します。該当するエレメントを修正してください。config.xml の設定については, 「3.3.3 環境設定ファイルの内容」を参照してください。

KNAP6034-E

config.xml ファイルの内容に誤りがあるため処理できません。config="config.xml のファイルパス ", Element=" 属性に誤りのあるエレメント名 ", Attribute=" 誤りのある属性名 "

(S)

処理を終了します (終了コード: 9)。

(O)

config.xml の内容に誤りがある場合に発生します。該当するエレメントの属性を修正してください。config.xml の設定については, 「3.3.3 環境設定ファイルの内容」を参照してください。

KNAP6035-E

config.xml ファイルの値に誤りがあるため処理できません。config="config.xml のファイルパス", Element=" 値に誤りのあるエレメント名 ", Attribute=" 値に誤りのある属性名 ", Value=" 誤りのある値 "

(S)

処理を終了します (終了コード: 9)。

(O)

config.xml の値に誤りがある場合に発生します。該当するエレメント内の属性の値を修正してください。config.xml の設定については、「3.3.3 環境設定ファイルの内容」を参照してください。

KNAP6041-E

カスタムジョブ定義が読み込めないため処理できません。Parm=" 変数名 "

(S)

処理を終了します (終了コード: 9)。

(O)

PDF 変換ジョブ定義の活文 PDFstaff サーバの URL および圧縮送信の指定に誤りがある場合に発生します。PDF 変換ジョブの定義で、活文 PDFstaff サーバの URL および圧縮送信の指定を修正してください。活文 PDFstaff サーバの URL の指定については、「4.2.1 PDF 変換ジョブの定義方法」を参照してください。また、圧縮送信の指定については、「4.2.6 ジョブ実行ホストと活文 PDFstaff サーバとの通信時間を短縮する (任意)」を参照してください。

KNAP6042-E

入力フォルダまたはファイルの指定方法に誤りがあるため処理できません Folder=" 現在指定されている入力フォルダまたはファイルのパス "

(S)

処理を終了します (終了コード: 9)。

(O)

PDF 変換ジョブの定義で、入力フォルダまたはファイルの指定に誤りがある場合に発生します。PDF 変換ジョブの定義で、入力フォルダまたはファイルの指定を修正してください。PDF 変換ジョブの定義については、「4.2.1 PDF 変換ジョブの定義方法」を参照してください。JP1/AJS2 のマクロ変数を使用している場合は、引き継ぎ情報の設定を確認してください。

KNAP6043-E

出力フォルダの指定方法に誤りがあるため処理できません Folder=" 現在指定されているフォルダのパス "

(S)

処理を終了します (終了コード: 9)。

(O)

PDF 変換ジョブの定義で、出力フォルダの指定に誤りがある場合に発生します。
PDF 変換ジョブの定義で、出力フォルダの指定を修正してください。PDF 変換ジョブの定義については、「4.2.1 PDF 変換ジョブの定義方法」を参照してください。
JP1/AJS2 のマクロ変数を使用している場合は、引き継ぎ情報の設定を確認してください。

KNAP6044-E

カスタムジョブ定義に誤りがあるため処理できません。Parm=" 変数名 ", Value=" 誤りのある値 "

(S)

処理を終了します (終了コード: 9)。

(O)

PDF 変換ジョブ定義に誤りがある場合に発生します。PDF 変換ジョブの定義については、「4.2 PDF 変換ジョブの定義」を参照してください。

KNAP6051-E

入力フォルダまたはファイルが存在しません。Folder=" 現在指定されている入力フォルダまたはファイルのパス "

(S)

処理を終了します (終了コード: 9)。

(O)

ジョブ実行ホストに入力フォルダまたはファイルがない場合に発生します。入力フォルダまたはファイルのアクセス許可を正しく設定するか、入力フォルダまたはファイルを作成してください。
ネットワークフォルダを使用する場合、ネットワークに重複したホスト名がないか確認し、正しいホスト名を使用するよう修正してください。

KNAP6052-E

PDFstaff Server の URL が見つかりません。PDFstaff ServerURL=" 現在指定されている活文 PDFstaff の URL "

(S)

処理を終了します (終了コード: 9)。

(O)

活文 PDFstaff の URL が未設定、または不正の場合に発生します。PDF 変換ジョブ定義で指定した活文 PDFstaff の URL を確認し、修正してください。

KNAP6058-I

ファイルを上書きします。File=" 文書のファイル名 "

(S)

処理を続行します。

KNAP6061-E

フォルダを作成できません。Folder=" 作成しようとしたフォルダのパス "

(S)

処理を終了します (終了コード: 9)。

(O)

フォルダのアクセス許可の設定を確認し、フォルダが作成できるように設定してください。

ネットワークフォルダを使用する場合、ネットワークに重複したホスト名がないか確認し、正しいホスト名を使用するよう修正してください。

KNAP6071-E

JP1 のログ出力ライブラリにおいてエラーが発生しました。ログが出力されません。

(S)

処理を終了します (終了コード: 9)。

(O)

JP1 のログ出力ライブラリーにアクセスできなかった場合に発生します。JP1/Base または JP1/AJS2 が正しくインストールされていることを確認してください。

KNAP6072-E

ログ出力先が存在しないためログ出力が行えません。Folder=" ログ出力先フォルダのパス "

(S)

処理を終了します (終了コード: 9)。

(O)

ジョブ実行ホストにログフォルダ (JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のインストール先フォルダ ¥log) がない場合に発生します。ログフォルダのアクセス許可を正しく設定するか、ログフォルダを作成してください。

KNAP6801-W

活文 PDFstaff でエラーが発生しました。詳細情報："活文 PDFstaff の出力するメッセージテキスト"

(S)

その文書の PDF 変換処理を終了し、次の文書の PDF 変換処理に移ります (終了コード: 2)。

(O)

活文 PDFstaff のマニュアルを参照して対処してください。

KNAP6802-W

PDF 変換処理でエラーが発生しました。詳細情報："PDF 変換処理中に発生した重要度 E のメッセージ ID とメッセージテキスト"

(S)

その文書の PDF 変換処理を終了し、次の文書の PDF 変換処理に移ります (終了コード: 2)。

(O)

PDF 変換処理中にフォルダなどにアクセスできなくなった場合に発生します。詳細情報のメッセージ ID およびメッセージテキストを参照して対処してください。

KNAP6902-E

メモリが不足しています。しばらく待ってから再実行してください。

(S)

処理を終了します (終了コード: 9)。

(O)

ジョブ実行ホストがメモリー不足でこれ以上処理を受け付けることができない場合に発生します。しばらく待ってから再実行してください。

KNAP6903-E

予期しないエラーが発生しました。

(S)

処理を終了します (終了コード: 9)。

(O)

処理実行中に予期しないエラーが発生しました。活文 PDFstaff サーバの状態を確認してください。活文 PDFstaff サーバが正常に稼働している場合、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の動作環境が壊れているおそれがあります。JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff を再インストールしてください。

7

トラブルシューティング

この章では、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の運用中にトラブルが発生した場合の対処方法について説明します。

7.1 対処の手順

7.2 ログの種類

7.3 トラブルが解決しない場合に採取する資料

7.4 トラブル別の対処方法

7.1 対処の手順

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff でトラブルが発生した場合の対処の手順を次に示します。

1. 現象の確認

トラブルが発生したときの現象を確認してください。

稼働ログおよびダイアログにメッセージが出力されている場合は、メッセージの内容を確認して対処してください。メッセージの意味および対処方法については、「6.5 メッセージ一覧」を参照してください。

「6.5 メッセージ一覧」に該当するメッセージがない場合は、JP1/AJS2 側のトラブルであることが考えられます。JP1/AJS2 側のトラブルが発生した場合の対処方法については、「6.1 メッセージの分類」を参照の上、該当する製品のマニュアルを参照してください。

2. トラブルが解決しない場合の対処

トラブルが解決しない場合は、解決に必要な資料を採取したあと、システム管理者に連絡してください。トラブル解決に必要な資料と資料の採取方法については、「7.3 トラブルが解決しない場合に採取する資料」を参照してください。

7.2 ログの種類

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のログ情報は、すべて稼働ログとして出力されます。稼働ログは、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の稼働状態およびトラブルの内容を記録する、システム管理者向けのログ情報です。

稼働ログファイルの詳細を次の表に示します。

表 7-1 JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の稼働ログの詳細

ログの種類	ファイル名・フォルダ名	出力される情報	デフォルトのディスク占有量(単位:バイト) ¹	最大ディスク占有量(単位:バイト) ²	ファイル切り替え時期 ³
稼働ログ	JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のインストール先フォルダ ¥log¥ajspdfs¥n.log ⁴	エラーメッセージ、ファイル単位での PDF 変換の正常 / 異常、およびプログラムの起動 / 停止のメッセージ	2,097,152	268,435,456	ラップアラウンド

注 1

環境設定の値をデフォルトの状態で運用した場合のディスク占有量を示します。

注 2

稼働ログファイルの最大のディスク占有量を示します。

注 3

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff が出力先の稼働ログファイルを切り替えるタイミングを示します。

注 4

n には、1 ~ 16 の数値が入ります。

7.3 トラブルが解決しない場合に採取する資料

トラブルが解決しない場合は、次の情報を採取してください。

- JP1/AJS2 の障害情報
- JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の障害情報

それぞれの情報の採取方法について説明します。

7.3.1 JP1/AJS2 の障害情報

JP1/AJS2 の運用でトラブルが発生した場合に必要な情報を採取する方法については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド」のトラブルシューティングについて説明している章を参照してください。

7.3.2 JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の障害情報

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の運用でトラブルが発生した場合、障害情報は `ajspdfs_log` コマンドで採取します。

`ajspdfs_log` コマンドは、使用する前にセットアップが必要です。セットアップについては、「3.4 障害が発生したときに必要な資料を採取するための設定」を参照してください。また、資料を採取したら、それらの資料をバックアップしておくことをお勧めします。

`ajspdfs_log` コマンドの詳細は次のとおりです。

(1) 形式

```
ajspdfs_log
```

(2) 機能

障害が発生したときに必要な、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の資料を採取します。

(3) 採取した資料の格納先と採取する資料の情報

`ajspdfs_log` コマンドで採取した資料は、デフォルトでは次のフォルダに出力されます。

```
%TEMP%\¥JP1AJS2FORPDFS¥backlog¥JP1_DEFAULT
```

「%TEMP%」は、Windows の環境変数 `%TEMP%` を示します。

資料の格納先は、変更できます。資料の格納先を変更する方法については、「3.4 障害が発生したときに必要な資料を採取するための設定」を参照してください。

採取する情報は次のとおりです。

- JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のすべてのログファイル
- JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のすべての設定ファイル
- JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff および活文 PDFstaff Client SDK のインストール先フォルダに格納されているすべてのファイルリスト (FILELIST.TXT)
- JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のレジストリー情報 (JP1AJS2forPDFS.DAT)
- 活文 PDFstaff Client SDK のレジストリー情報 (ClientSDK.DAT)
- OS のプロセスリストおよびシステム情報 (winmsd.txt)

ajspdfs_log コマンドで採取されるファイルおよびフォルダを次の表に示します。

表 7-2 ajspdfs_log コマンドで採取されるファイルおよびフォルダ一覧

項番	ファイルおよびフォルダ	内容
1	file¥JP1AJS2FORPDFS¥log	JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のすべてのログファイルをコピーして格納するフォルダです。
2	file¥JP1AJS2FORPDFS¥settings	JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のすべての設定ファイルをコピーして格納するフォルダです。
3	FILELIST.TXT	JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff および活文 PDFstaff Client SDK のインストール先フォルダの下にあるファイルのリストです。
4	JP1AJS2forPDFS.DAT	JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のレジストリー情報です。
5	ClientSDK.DAT	活文 PDFstaff Client SDK のレジストリー情報です。
6	winmsd.txt	OS の実行中のタスクおよび OS のシステム概要です。
7	geterror.log	ajspdfs_log コマンドのログです。

(4) 実行権限

Administrators 権限

(5) 戻り値

戻り値	内容
0	資料を正常に採取できたことを示します。
1	採取した資料を格納したフォルダがすでにある場合、フォルダを削除するかどうかが確認されます。この確認に対する応答で、コマンドの実行を中止したことを示します。
10	資料の採取に失敗したことを示します。

(6) 注意事項

ajspdfs_log コマンドを複数同時に実行しないでください。複数同時に実行した場合、次のエラーメッセージが出力されることがあります。

- プロセスはファイルにアクセスできません。別のプロセスが使用中です。
- アクセスが拒否されました。

7. トラブルシューティング

- 指定されたパスが見つかりません。

(7) 使用例

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の資料を採取する例を次に示します。

`ajspdfs_log`

7.4 トラブル別の対処方法

ここでは、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff で発生するトラブルに対処する方法について、事例別に説明します。

7.4.1 PDF 変換ができない場合の対処

次の手順に従って原因を特定し、対処してください。

1. JP1/AJS2 のスケジューラーログを確認する。
主要な現象および対処を次に示します。
 - ジョブが実行されていない
PDF 変換ジョブの登録およびジョブの定義内容を見直してください。
 - ジョブが異常終了または警告終了している
手順 2 を実施してください。
 - ジョブが正常終了している
PDF 変換は成功していると考えられます。PDF 変換ジョブの定義で指定した対象フォルダの場所を確認してください。

JP1/AJS2 のスケジューラーログの詳細は、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 設計・運用ガイド」を参照してください。

2. JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の稼働ログを確認する。
エラーメッセージ「KNAP6801-W 活文 PDFstaff でエラーが発生しました。詳細情報：" 活文 PDFstaff の出力するメッセージテキスト"」が出力されている場合は、メッセージの詳細情報を基に、活文 PDFstaff Client SDK のマニュアルを参照して対処してください。
それ以外エラーメッセージが出力されている場合は、「6.5 メッセージ一覧」を参照して対処してください。
3. 活文 PDFstaff のログを確認する。
PDF 変換しようとしたファイルに問題がある場合、活文 PDFstaff のログにエラーメッセージが出力されることがあります。活文 PDFstaff のマニュアルを参照して対処してください。

7.4.2 PDF 変換ジョブが終了しない場合の対処

活文 PDFstaff サーバの動作が停止しているおそれがあります。活文 PDFstaff のログを確認し、対処してください。活文 PDFstaff のログの詳細は、活文 PDFstaff のマニュアルを参照してください。

参考

JP1/AJS2 で PDF 変換ジョブの打ち切り時間を指定すると、活文 PDFstaff サーバ

7. トラブルシューティング

の動作が停止した場合でも、打ち切り時間を過ぎると PDF 変換ジョブが終了されるため、JP1/AJS2 - View でエラーを確認できます。打ち切り時間の指定の詳細は、「4.2.1 PDF 変換ジョブの定義方法」を参照してください。

付録

付録 A ファイルおよびフォルダ一覧

付録 B 日付変数とページ変数一覧

付録 C 運用例

付録 D 用語解説

付録 A ファイルおよびフォルダー一覧

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のファイル，およびフォルダー一覧を次の表に示します。

表 A-1 JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のファイルおよびフォルダー一覧

内容	ファイル名
PDF 変換ジョブ実行プログラム	JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のインストール先フォルダ ¥bin¥ajspdfsa.exe
PDF 変換ジョブ定義プログラム	JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のインストール先フォルダ ¥bin¥ajspdfsv.exe
環境設定ファイル	JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のインストール先フォルダ ¥settings¥config.xml
環境設定モデルファイル	JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のインストール先フォルダ ¥settings¥config.xml.model
Readme ファイル	JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のインストール先フォルダ ¥readme.txt
PDF 変換ジョブアイコン	JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のインストール先フォルダ ¥image¥CUSTOM_PC_AJSPDFS.gif
稼働ログファイル	JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のインストール先フォルダ ¥log¥ajspdfs¥n.log
稼働ログ管理ファイル	JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のインストール先フォルダ ¥log¥mmap¥ajspdfs.mm
資料採取サンプルバッチファイル	JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のインストール先フォルダ ¥tools¥ajspdfs_log.bat

注

n には，1 ~ 16 の数値が入ります。

付録 B 日付変数とページ変数一覧

ヘッダ、フッタ、および透かし文字の表示文字列に、日付変数およびページ変数を指定すると、PDF 変換時の日付やページ情報が自動的に挿入されます。指定できる日付変数とページ変数を次の表に示します。

表 B-1 日付変数とページ変数一覧

	変数	挿入される内容
日付変数	{ \$year }	年 (西暦)
	{ \$month }	月 (2 けた)
	{ \$day }	日 (2 けた)
	{ \$hour }	時 (2 けた, 24 時間表記)
	{ \$minutes }	分 (2 けた)
	{ \$second }	秒 (2 けた)
ページ変数	{ \$page }	PDF 作成後のページ番号 (半角数字)
	{ \$numpages }	PDF 作成後のページ数 (半角数字)

注

日付変数で挿入される日付・時刻は、活文 PDFstaff がインストールされているホスト上の日付・時刻です。

付録 C 運用例

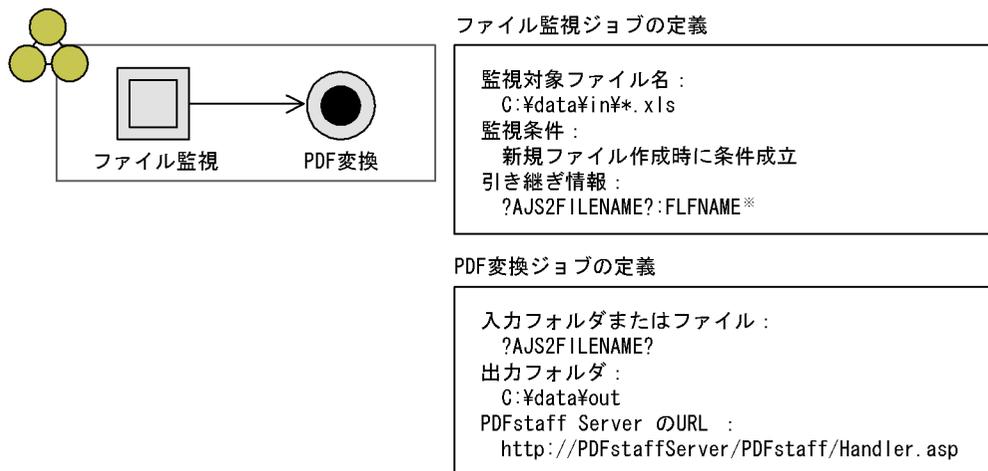
JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff の運用例について説明します。

(1) マクロ変数を使用した運用例

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff は、JP1/AJS2 のマクロ変数を使用して業務を作成できます。JP1/AJS2 のマクロ変数については、マニュアル「JP1/Automatic Job Management System 2 解説」を参照してください。

ファイル監視ジョブで新規に作成されるファイルを監視し、ファイルが作成されたらそのファイル名をマクロ変数に引き継いで PDF 変換ジョブを実行する例を次に示します。

図 C-1 マクロ変数を使用した運用例



注※ ファイル完全名を示す変数。

この場合、C:¥data¥in フォルダに newfile.xls というファイルが作成された場合、「PDF 変換」ジョブの入力フォルダには C:¥data¥in¥newfile.xls というファイル名が引き継がれ、出力フォルダ (C:¥data¥out) に newfile.pdf というファイルが出力されます。

付録 D 用語解説

(英字)

Adobe LiveCycle Assembler

PDF ファイルの結合・分割，透かし文字の追加など PDF ファイルの編集機能を提供するアドビシステムズ社のサーバ製品です。

Adobe LiveCycle PDF Generator

PostScript ファイルからの PDF 作成機能を提供するアドビシステムズ社のサーバ製品です。

Adobe サーバ

Adobe LiveCycle PDF Generator または Adobe LiveCycle Assembler が動作する環境を指します。

JP1/AJS2 - View ホスト

JP1/AJS2 - View をインストールしたホストです。GUI でジョブネットを定義したり，ジョブネットの実行状況および実行結果を確認したりします。

PDF

Portable Document Format の略称です。アドビシステムズ社が開発した世界中で利用されている配信用電子文書フォーマットを指します。

PDF 変換ジョブ

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff 用のカスタムジョブです。

PDF 変換ホスト

活文 PDFstaff，Adobe LiveCycle PDF Generator，および Adobe LiveCycle Assembler をインストールしたホストです。ジョブ実行ホストから依頼された PDF 変換を実行します。

(ア行)

イベントジョブ

事象（イベント）の発生を監視するジョブです。ジョブフローやジョブネットの起動条件などにイベントジョブを定義することによって，事象の発生を契機にジョブやジョブネットを実行させることができます。

打ち切り時間

ジョブを実行したとき，ジョブからの応答がなかったり終了しなかったりした場合に，ジョブを強制的に打ち切るまでの時間です。

(カ行)

カスタムジョブ

ある特定の機能を持つジョブを実行するように、あらかじめ定義されたジョブです。ファイル転送やメインフレームへのジョブ依頼など、標準カスタムジョブとして提供しているもののほかに、業務の中でよく使うジョブをカスタムジョブとして登録しておくこともできます。カスタムジョブとして登録する場合、専用のアイコンの形、絵、またはジョブ情報入力のためのダイアログボックスが作成できます。

なお、カスタムジョブを使用する場合は、そのジョブに必要なプログラムをインストールしておく必要があります。

活文 PDFstaff

活文 PDFstaff Server を指します。活文 PDFstaff Server をサーバにインストールすることで、クライアントからの PDF 変換要求を受け付けて、Adobe サーバに PDF 変換を依頼します。JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff を導入したシステムでは、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff からの PDF 変換ジョブの要求を受け付けます。

活文 PDFstaff サーバ

活文 PDFstaff がインストールされたホストを指します。

(サ行)

サフィックス

このマニュアルでは、拡張子を除いたファイル名の末尾に付く文字列を指します。例えば、「議事録 20070617.doc」、「議事録 20070717.doc」および「議事録 20070817.doc」のサフィックスはそれぞれ「20070617」、「20070717」、および「20070817」です。

実行プログラム

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のうち、PDF 変換ジョブを実行するプログラムです。

終了コード

ジョブの実行結果として JP1/AJS2 - Manager に返信される戻り値です。ジョブの終了コードにしきい値を定義して、ジョブの終了状態を正常、警告、または異常と判断させることができます。また、先行ジョブの終了コードによって、次のジョブを実行するかどうかを判定ジョブによって判定させることもできます。

出力フォルダ

PDF 変換されたあとの PDF ファイルが格納されるフォルダです。

ジョブ実行多重度

同時に実行できるジョブの数のことです。JP1/AJS2 は、ジョブ実行多重度を定義することで、複数のジョブを同時に実行できます。PDF 変換ジョブでも、ジョブ実行多重度を設定すれば、複数の PDF 変換ジョブを同時に実行できます。ただし、複数の PDF 変換ジョブを同時に実行する場合は、活文 PDFstaff が受け付けられる PDF 変換ファイル数を考慮する必要があります。詳細は、「2.4.2 PDF 変換ジョブを同時に複数実行する場合の注意事項」を参照してください。

ジョブ実行ホスト

マネージャーホストから依頼されたジョブを実行するホストです。このマニュアルでは、JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff, および JP1/AJS2 - Agent をインストールしたホストを指します。

(タ行)

対象フォルダ

PDF変換に必要なフォルダです。具体的には、入力フォルダおよび出力フォルダを指します。

定義プログラム

JP1/AJS2 for 活文 PDFstaff のうち、PDF変換ジョブを定義するプログラムです。

(ナ行)

入力フォルダ

PDF変換したいファイルを格納するフォルダです。PDF変換ジョブの定義の前に必ず作成しておきます。

(ハ行)

引き継ぎ情報

後続ジョブが先行ジョブから引き継ぐ情報です。

ファイル監視ジョブ

特定のファイルの作成、削除、および更新を監視するジョブです。ファイル監視ジョブを使って、「あるファイルが更新されたときに後続ジョブを実行する。」といったジョブネットを定義できます。

(マ行)

マクロ変数

後続ジョブでイベント受信情報を参照するために定義する変数です。イベントジョブに情報を引き継ぐためのマクロ変数名を定義し、引き継ぐイベントのマクロ変数を後続ジョブで指定します。

マネージャーホスト

JP1/AJS2 - Manager をインストールしたホストです。ジョブネットの定義情報やスケジュール情報をデータベースで管理し、ジョブの実行をジョブ実行ホストに依頼します。

(ワ行)

ワークパス

ジョブ実行ホストのインストールパスを変数として定義したものをワークパスといいます。

ジョブ実行先ホストのインストールパスが、ほかのジョブ実行ホストと異なるような運用をする場合に、各ジョブ実行ホストでワークパスを定義すると、異なるインストールパスを共通の変数で表せるようになります。これによって、インストール先を意識しないで、JP1/AJS2 - View でのカスタムジョブ登録やジョブ定義ができるようになります。

索引

A

Adobe LiveCycle Assembler 13
Adobe LiveCycle Assembler〔用語解説〕 89
Adobe LiveCycle PDF Generator 13
Adobe LiveCycle PDF Generator〔用語解説〕 89
Adobe サーバ 13
Adobe サーバ〔用語解説〕 89
ajspdfs_log コマンド 80
ajspdfs_log コマンドで採取されるファイルおよびフォルダ 81

C

config.xml 27

H

HTTP 通信 3

J

JP1/AJS2 - View 11
JP1/AJS2 - View ホスト 3, 9
JP1/AJS2 - View ホスト〔用語解説〕 89
[JP1 資源グループ] 40

P

PDF〔用語解説〕 89
[PDFstaff Server の URL] 43
[PDF 設定] ダイアログボックス 41
[PDF 設定] ダイアログボックスの[環境] タブ 51
[PDF 設定] ダイアログボックスの[環境] タブの定義方法 51
[PDF 設定] ダイアログボックスの[基本] タブ 41
[PDF 設定] ダイアログボックスの[基本] タブの定義方法 42
[PDF 設定] ダイアログボックスの[透かし] タブ 49

[PDF 設定] ダイアログボックスの[透かし] タブの定義方法 49
[PDF 設定] ダイアログボックスの[操作制限] タブ 45
[PDF 設定] ダイアログボックスの[操作制限] タブの定義方法 45
[PDF 設定] ダイアログボックスの[開く] タブ 44
[PDF 設定] ダイアログボックスの[開く] タブの定義方法 44
[PDF 設定] ダイアログボックスの[ヘッダ・フッタ] タブ 47
[PDF 設定] ダイアログボックスの[ヘッダ・フッタ] タブの定義方法 47
PDF 変換ができない場合の対処 83
PDF 変換ジョブ〔用語解説〕 89
PDF 変換ジョブアイコン 86
PDF 変換ジョブが終了しない場合の対処 83
PDF 変換ジョブの実行 52
PDF 変換ジョブを定義する 37
PDF 変換できるファイルの種類と拡張子 4
PDF 変換ホスト 3, 11, 12
PDF 変換ホスト〔用語解説〕 89

R

Readme ファイル 86

あ

アクティブ・スタンバイ構成 58
アンインストール 33

い

イベントジョブ〔用語解説〕 89
[印刷を許可] 46
インストール 25
インストール先フォルダ V
インストール時の注意事項 25
インストールとセットアップの流れ 24

う

打ち切り時間 83
 打ち切り時間〔用語解説〕 89
 [打ち切り時間] 40
 [打ち切り時間指定] 40
 上書きインストール 26
 運用までの流れ 6
 運用例 88

か

カスタムジョブ〔用語解説〕 90
 [カスタムジョブ] タブ 37
 カスタムジョブを登録する 31
 活文 PDFstaff 90
 活文 PDFstaff Client SDK 25
 活文 PDFstaff サーバ 90
 稼働ログ 79
 稼働ログ管理ファイル 86
 稼働ログの詳細 79
 稼働ログファイル 86
 環境設定 27
 環境設定ファイル 86
 環境設定ファイルの定義方法 27
 環境設定ファイルの内容 29
 環境設定モデルファイル 86

き

機能 3
 「強制終了」状態 59

く

クラスタ構成 58
 クラスタシステムの環境構築 58

け

系切り替え時の動作と回復手順 59

こ

[コメント] 39

さ

採取する情報 80
 サフィックス 43
 サフィックス〔用語解説〕 90

し

システム構成の制限事項 11
 システム構成例 9
 システム構成を検討 6
 実行系のジョブ実行ホスト 59
 実行結果が異常または警告だった場合の対処 55
 実行結果の確認 53
 実行時のユーザー 39
 実行する前の確認 52
 実行中の注意事項 55
 実行登録 52
 実行プログラム 86
 実行プログラム〔用語解説〕 90
 [実行ホスト] 39
 [実行ユーザー種別] 40
 [実行優先順位] 39
 終了コード 53
 終了コード〔用語解説〕 90
 終了判定〔異常しきい値〕 39
 終了判定〔警告しきい値〕 39
 終了判定〔判定結果〕 39
 [出力ファイルに付与するサフィックス] 43
 出力フォルダ 3, 36, 42
 出力フォルダ〔用語解説〕 90
 [出力フォルダ] 42
 [種別] 40
 障害情報 80
 [詳細定義 - [Custom Job]] ダイアログボックス 38
 [詳細定義 - [Custom Job]] ダイアログボックスの〔属性〕タブ 40
 [詳細定義 - [Custom Job]] ダイアログボックスの〔定義〕タブ 39
 [詳細定義 - [Custom Job]] ダイアログボックスの共通項目 39
 ジョブ実行多重度 18

ジョブ実行多重度〔用語解説〕 90
 ジョブ実行ホスト 3, 10, 12
 ジョブ実行ホスト〔用語解説〕 91
 [所有者] 40
 [所有ユーザー] 40
 資料採取サンプルバッチファイル 86
 新規インストール 25

す

透かし文字を定義する(任意) 49
 [スクリーンリーダーデバイスのテキストア
 クセスを有効にする] 46

せ

セキュリティ設定 46
 セキュリティの種類 5
 セキュリティパスワード 45
 セキュリティを定義する 44
 前提プログラム 9

た

待機系の PDF 変換ジョブ 59
 待機系のジョブ実行ホスト 59
 対象フォルダ 36, 42
 対象フォルダ〔用語解説〕 91
 対象フォルダの作成方法 36

て

定義プログラム 86
 定義プログラム〔用語解説〕 91
 ディスク占有量 12
 [データを圧縮する] 51
 [テキスト, 画像, およびその他の内容のコ
 ピーを有効にする] 46

と

動作環境 6
 同時実行 18
 導入 6
 導入事例 2
 導入前の検討項目一覧 8

[登録ユーザー] 40
 特長 2

に

入力フォルダ 3, 36, 42
 入力フォルダ〔用語解説〕 91
 [入力フォルダまたはファイル] 42

は

パスワードを定義する 43

ひ

引き継ぎ情報〔用語解説〕 91
 日付変数 87
 [標準エラー出力ファイル名] 39
 [標準出力ファイル名] 39

ふ

ファイルおよびフォルダー一覧 86
 ファイル監視ジョブ 88
 ファイル監視ジョブ〔用語解説〕 91
 フェールオーバー 59
 フッタ設定 48
 物理ホスト 58
 文書を開くパスワード 44

へ

ページ変数 87
 ヘッダおよびフッタを定義する 47
 ヘッダ設定 47
 変換処理の流れ 3
 [変更を許可] 46

ほ

[保留] 40

ま

マクロ変数 88
 マクロ変数〔用語解説〕 91
 マネージャーホスト 10

マネージャーホスト〔用語解説〕 91

め

メッセージの出力先 65

メモリー所要量 12

ゆ

〔ユニット名〕 39

り

リカバリー 40

リモートインストール 26

ろ

ログ情報 79

ログファイルの設定に関する注意事項 55

わ

ワークバス〔用語解説〕 91

ソフトウェアマニュアルのサービス ご案内

ソフトウェアマニュアルについて、3種類のサービスをご案内します。ご活用ください。

1. マニュアル情報ホームページ

ソフトウェアマニュアルの情報をインターネットで公開しております。

URL <http://www.hitachi.co.jp/soft/manual/>

ホームページのメニューは次のとおりです。

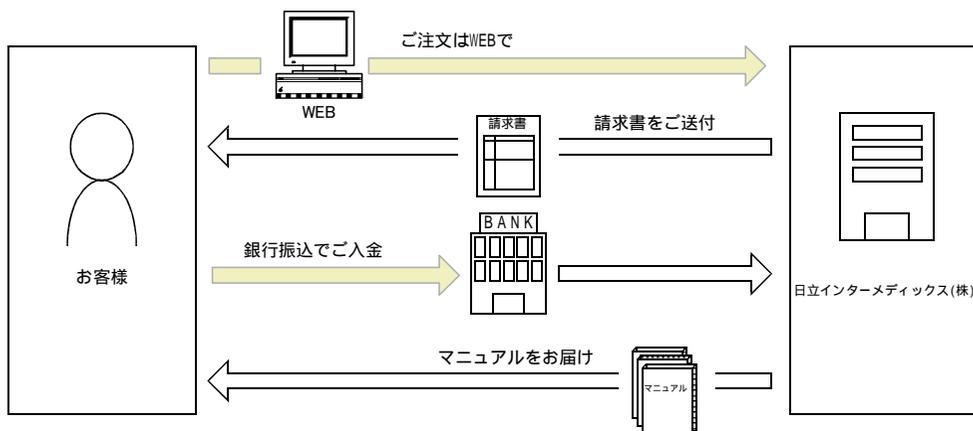
マニュアル一覧	日立コンピュータ製品マニュアルを製品カテゴリ、マニュアル名称、資料番号のいずれかから検索できます。
CD-ROMマニュアル情報	複数マニュアルを格納したCD-ROMマニュアルを提供しています。どの製品に対応したCD-ROMマニュアルがあるか、を参照できます。
マニュアルのご購入	日立インターメディックス(株)の「日立コンピュータ製品マニュアルサイト」からお申し込みできます。 (詳細は「3. マニュアルのご注文」を参照してください。)
Web提供マニュアル一覧	インターネットで参照できるマニュアルの一覧を提供しています。 (詳細は「2. インターネットからのマニュアル参照」を参照してください。)
ご意見・お問い合わせ	マニュアルに関するご意見、ご要望をお寄せください。

2. インターネットからのマニュアル参照(ソフトウェアサポートサービス)

ソフトウェアサポートサービスの契約をしていただくと、インターネットでマニュアルを参照できます。本サービスの対象となる契約の種別、及び参照できるマニュアルは、マニュアル情報ホームページでご確認ください。なお、ソフトウェアサポートサービスは、マニュアル参照だけでなく、対象製品に対するご質問への回答、問題解決支援、バージョン更新版の提供など、お客様のシステムの安定的な稼働のためのサービスをご提供しています。まだご契約いただいていない場合は、ぜひご契約いただくことをお勧めします。

3. マニュアルのご注文

日立インターメディックス(株)の「日立コンピュータ製品マニュアルサイト」からご注文ください。



下記 URL にアクセスして必要事項を入力してください。

URL http://www2.himdx.net/manual/privacy.asp?purchase_flag=1

ご注文いただいたマニュアルについて、請求書をお送りします。

請求書の金額を指定銀行へ振り込んでください。なお、送料は弊社で負担します。

入金確認後、7日以内にお届けします。在庫切れの場合は、納期を別途ご案内いたします。